平成 31 年 2 月 26 日
第３回インフラツーリズム有識者懇談会資料

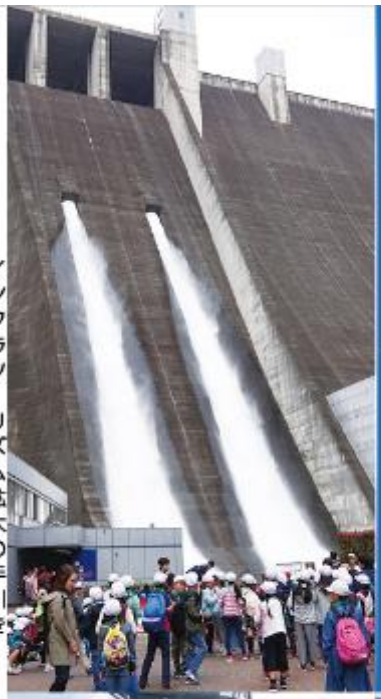
資料２

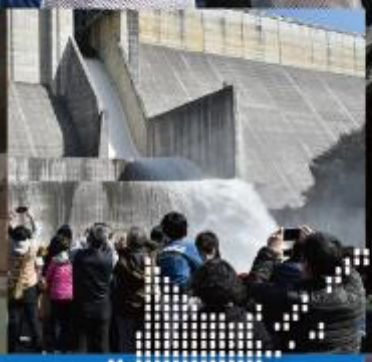
インフラツーリズム

拡大の手引き

－試行版－

（案）





インフラツーリズム拡大の手引き －試行版－

国土交通省 総合政策局

宮ヶ瀬ダム
（神奈川県）
苫田ダム
（岡山県）
川治ダム
（栃木県）
（仮称）
気仙沼港横断橋
（宮城県）
津軽ダム
（青森県）
明石海峡大橋
（兵庫県）
首都圏外郭放水路
（埼玉県）
尾原ダム
（島根県）
休山トンネル
（広島県）
第二海堡
（千葉県）
小谷村砂防ダム群
（長野県）
八ッ場ダム
（群馬県）

目　　次

はじめに

口　絵

1 現状と課題 …… 1
- 1　現状 …… 1
- 2　課題 …… 2

2 インフラツーリズム拡大に向けて …… 3
- 1　拡大に向けた考え方 …… 3
- 2　全体のレベルアップでインフラツーリズムを拡大 …… 5
- 3　課題への対応 …… 6

3 インフラツーリズム拡大の「勘所」 …… 7
- 1　「勘所」の概要 …… 7
- 2　「勘所」の使い方 …… 8
- 3　人を呼び込むための工夫 …… 9
- 4　人を受け入れるための工夫 …… 17
- 5　持続的に展開するための工夫 …… 22

4 先進事例の取り組み …… 28
- 八ッ場ダム（群馬県） …… 29
- 鬼怒川ダム群（栃木県） …… 31
- 首都圏外郭放水路（埼玉県） …… 33
- 宮ヶ瀬ダム（神奈川県） …… 35
- 国道 289 号　八十里越（新潟県・福島県） …… 37
- 天ヶ瀬ダム（京都府） …… 39
- 明石海峡大橋（兵庫県） …… 41
- 中国技術事務所＋国道 185 号 休山トンネル（広島県） …… 43
- 小谷村砂防ダム群 (長野県) …… 45
- 第二海堡（千葉県） …… 46

5 実施にあたっての留意点 …… 47

平成 31 年 2 月 26 日
第３回インフラツーリズム有識者懇談会資料

はじめに

インフラへの理解を深めていただくため、従来から施設管理者や工事関係者は、土木広報として現場見学会を行ってきました。現場見学会では、普段入れないインフラの内部や、今しか見られない工事中の風景など非日常の体験ができるため、近年では「インフラツーリズム」として、インフラの観光資源としての活用が注目されており、各地で実施しています。

また、観光産業を我が国の成長に資する基幹産業とするため、政府全体で取り組む中、国土交通省では２０１６年からインフラツーリズムを紹介するポータルサイトを立ち上げ、広くインフラツーリズムの魅力を発信しています。

インフラツーリズムに取り組み５年が経過し、多くの来訪者を集める魅力的なインフラも増えてきていますが、一方でインフラの魅力を十分に活かせていない施設も多数存在します。

このため、2018 年 11 月に「インフラツーリズム有識者懇談会」を設立し、インフラを観光資源として活用するインフラツーリズムを、付加価値を高め、地域や民間と連携した新たなインフラツーリズムに育て、展開していくために必要な方策について、幅広く議論を進めてきました。

本書は、これらの議論を踏まえ、インフラツーリズムを推進している先進事例からインフラの魅力を引き出す工夫を学び、その工夫点を「インフラツーリズム拡大の手引き」として取りまとめたものです。

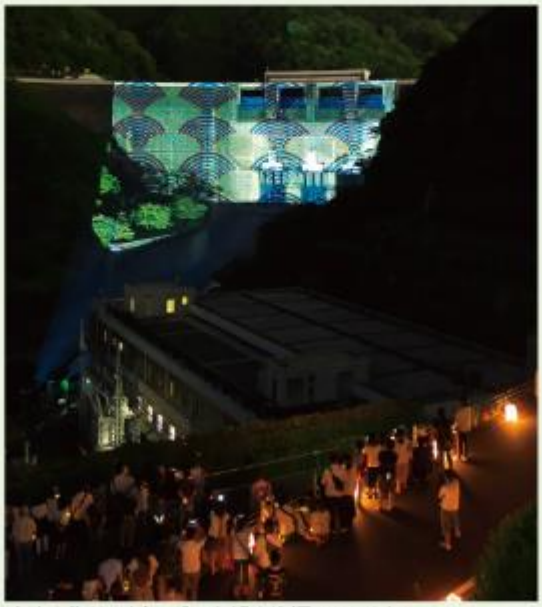
インフラは、日常の生活や経済活動を支えているだけではなく、観光資源として活用できる地域固有の財産です。

この手引きが、国土交通省をはじめとするインフラの施設管理者と地域の方々が連携し、地域に人を呼び込み地域活性化に寄与できるインフラツーリズムを育てていくための参考となることを願っています。

■本手引きのポイント

1	現状と課題	インフラツーリズムの現状と課題	P1～2
2	インフラツーリズム拡大に向けて	インフラツーリズムを進めて行く基本的な考え方	P3～6
3	インフラツーリズム拡大の勘所	インフラツーリズム拡大「勘所」の使い方	P7～8
		人を呼びこむための工夫	P9～16
		人を受け入れるための工夫	P17～21
		持続的に展開するための工夫	P22～27
4	先進事例の取り組み	勘所で取り上げた事例のうち特徴的な事例の全体像を紹介	P28～46
5	実施にあたっての留意点	インフラツーリズムを進めて行く留意点です	P47

民間運営見学システムで受け入れ枠を拡大
（首都圏外郭放水路・埼玉県）



宇治市街地に近いダムを観光資源として活用
（天ヶ瀬ダム・京都府）

工事現場見学と周辺資源の組み合わせで魅力 UP（国道 289 号　八十里越・新潟県・福島県）

ブリッジワールドを支える徹底した安全管理
（明石海峡大橋・兵庫県）

水陸両用バスの案内人がダムの監査廊を案内
（湯西川ダム・栃木県）

定期的な"観光放流"を情報発信
（宮ヶ瀬ダム・神奈川県）

ダム建設中の多彩な見学ツアーで魅力UP
（八ッ場ダム・群馬県）

複数のインフラ施設を組み合わせてツアーの魅力UP
（国道 185 号　休山トンネル・広島県）

地元のエコツアー会社がキャットウォークを案内
（川治ダム・栃木県）

自然豊かなダム湖で水陸両用車を体験
（津軽ダム・青森県）

1 現状と課題

1 現 状

インフラツーリズムは、ダムや道路などの社会基盤土木施設であるインフラを観光資源のひとつとして活用し、魅力ある観光地域づくりを進め、地域経済の活性化や雇用機会の増大につなげていくものとして、2013 年 6 月にとりまとめられた「観光立国実現に向けたアクション・プログラム（観光立国推進閣僚会議・主宰：内閣総理大臣）」の中で示された。

国土交通省では、インフラツーリズムを紹介するポータルサイトを 2016 年に開設し、広くインフラツーリズムを楽しむための情報提供を実施している。

インフラツーリズムポータルサイトに掲載された現場見学会数は、季節変動はあるものの、概ね年間を通して 300 件ほどの現場見学会が開催されている。

また、インフラの管理者と旅行会社等とが調整し民間事業者が催行する民間ツアー数は、年々増加しており、ポータルサイトを開設した 2016年度と比べ2018年度は３倍に増加した。

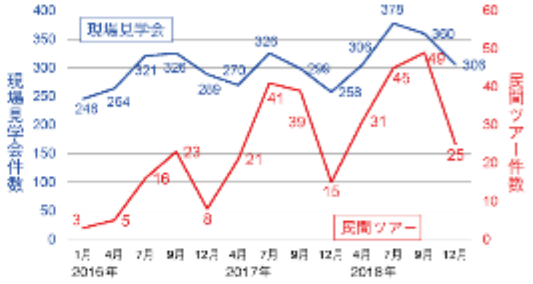
インフラツーリズムポータルサイトで取り上げているインフラは、ダム、道路、河川に関する施設が多く、全体の見学ツアーに参加する来訪者数は、約 370 施設で年間約 50 万人となっている。

■ポータルサイトに掲載しているインフラの種類

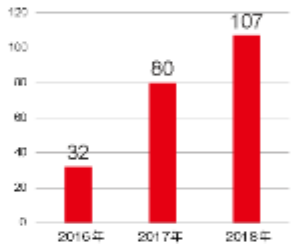
分 野	インフラの種類
道 路	道路、自動車道、橋梁、トンネル、街道、サイクリング道 等
河 川	堤防、水門、閘門、堰　等
ダ ム	ダム　等
砂 防	砂防ダム　等
下水道	下水処理施設、管路施設　等
港 湾	港内クルーズ、工場夜景、緑地広場、旅客乗降施設 等
空 港	展望施設、整備上場見学　等

※インフラツーリズムポータルサイト掲載の施設対象のアンケートより集計（国土交通省総合政策局調べ）
・来訪者の計測方法は施設ごとに異なる。
・特に多くの来訪者がより観光と一体となって利用されている河川・港湾クルーズ等は除く。

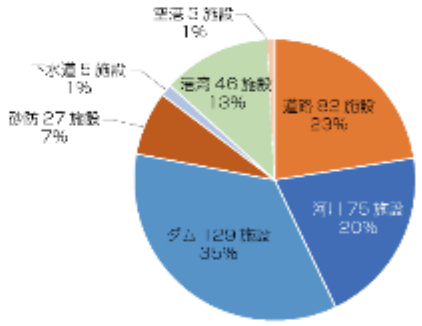
■ポータルサイト掲載件数の推移（四半期ごとの掲載件数の件数）



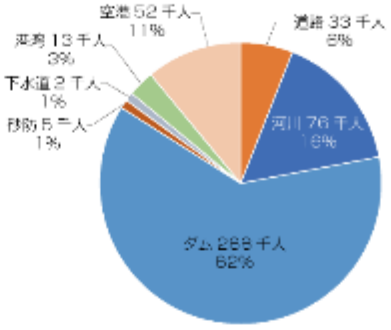
■ポータルサイト掲載件数のうち民間ツアーの推移（重複なし）



■ポータルサイト掲載施設数（2017年367施設）（※）



■ポータルサイト掲載施設の来訪者数（2017年487千人）（※）



2 課 題

ウェブアンケートでのインフラツーリズムの認知度調査では、『インフラツーリズム』を知らない人が約８割である一方、インフラを『見学したい』と思う人が 7 割以上であり、魅力を発信することでインフラツーリズムが拡大されていく余地は大きいと考えられる。

さらに、訪日外国人旅行客に対する意識調査でも、日本のインフラ見学に対して『興味がある』と回答する人が約 9 割と多いため、見せ方を工夫することで年々増加する訪日外国人旅行客の来訪が期待できる。

一方、インフラの施設管理者からは、課題としてインフラを案内する対応要員の確保が充分にできないこと、トイレや駐車場などの受入施設が不十分であること、見学者の安全確保が重要であることなどの意見がある。

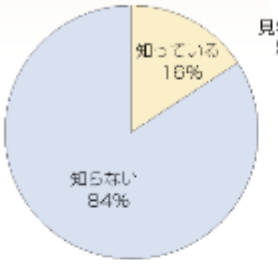
また、インフラツーリズムをテーマとしたツアーを企画する旅行会社からは、駐車場などの受入環境の充実を求める声とともに『ダムの全景を見ることができる場所がほしい』や『非公開部分を見せてほしい』、『一過性のイベント的な開催ではなく継続して実施したい』などの声があがっている。

今後は、地域と連携しながら、地域活性化に寄与するインフラツーリズムを実施していく必要がある。

インフラツーリズム拡大の課題

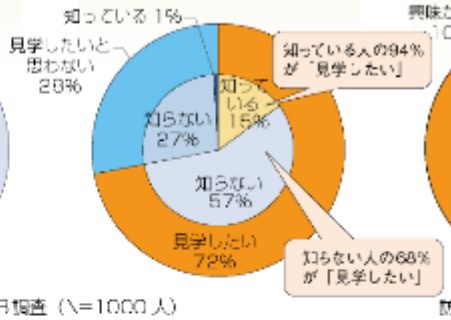
1. **施設の見せ方**
   観光資源として活用するには施設の見せ方に工夫が必要である
2. **広報周知**
   インフラの観光資源としての価値を広報することが必要である
3. **対応要員の確保**
   受け入れ枠の拡大には対応要員の確保が必要である
4. **受入環境の整備**
   トイレや駐車場などの十分な確保が必要である
5. **安全性の確保**
   非公開部分を公開するにあたり安全確保が必要である
6. **持続性の確保**
   継続的に実施していく仕組みが必要である
7. **地域との連携**
   地域との連携を深め地域活性化に寄与する必要がある

インフラツーリズムを知ってますか

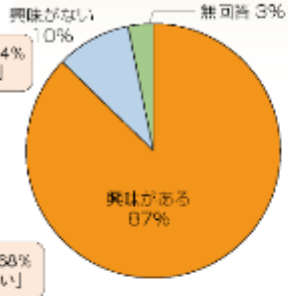


全国WEB調査（N=1000 人）
2018 年 7 月実施

インフラを見学したいですか

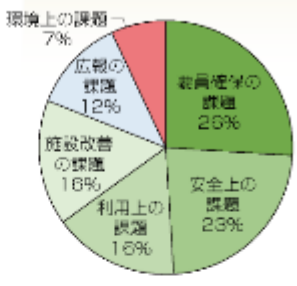


訪日外国人旅行客の関心度



訪日外国人旅行客ヒアリング
2018 年 7 月実施（※1）

施設管理者の課題認識



施設管理者アンケート
2018 年 7 月実施（※2）

民間事業者・地元観光協会等からの声

- トンネルや橋梁の工事は商品価値として高い
- もう一歩非公開部分に入り込めると、商品として売り出しやすい
- インスタ映えの写真を撮りたい方が多いのでダムの全景が見える場所があるといい
- 大型バスが停車できるスペースやトイレがあるとありがたい
- 団体で動けるように大型のエレベーター設置があるとありがたい
- PR 費用を考えると複数回は、見学ツアーを実施したい
- 利用客確保のために平日よりも休日に見学会を開催したい
- 都市では工場夜景が商品として販売できるなら工事現場の夜景も観光商品になるはずだ

※１東京シティアンでの訪日外国人対象（N=53 人 /20 ヶ国）の聞き取り調査結果
※２インフラツーリズムポータルサイトに掲載されている施設へのアンケート調査結果

2 インフラツーリズム拡大に向けて

1 拡大に向けた考え方

インフラツーリズムは、インフラの役割や意義などインフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事中の風景など非日常を体験するツアーを地域と連携して展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指している。

インフラツーリズム拡大の考え方として、今まで実施してきた“土木広報としてのインフラの見学会”に付加価値をつけて、“人が呼べる観光資源としてインフラを磨き上げ”、広範囲からインフラへの見学者を呼び込み、インフラの見学にとどまらず、インフラが設置されている地域の方々と連携して、“周辺観光資源への立ち寄りや地域への宿泊を促し”、地域活性化を進めて行くことが重要である。

なお、インフラの特性（用途･構造･規模など）や地域の特性（地形･周辺状況･歴史など）によって、各地域でインフラツーリズムの進め方の条件は異なり、それぞれの地域で目標とする段階も異なる。また、現在の来訪状況により、ステップアップしていくため取り組み内容も変わってくる。そのため、各施設が置かれた「インフラツーリズムの段階」を踏まえ、インフラツーリズムの拡大に向けた取り組みを進める必要がある。

■インフラツーリズムの拡大を図るために

①まず、インフラに来てもらう
②そこで、インフラを楽しんで理解してもらう
③そして、地域に滞在してもらう

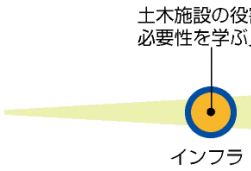
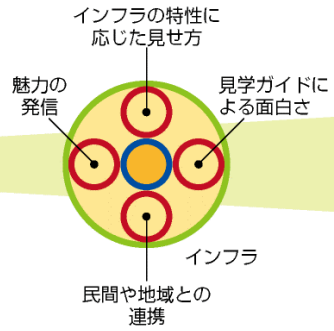
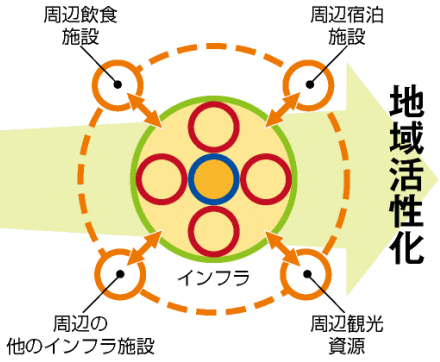
■実現するために

①魅力的な施設の見せ方を工夫する
②魅力を発信する（広報周知）
③対応要員を確保する
④受入環境を整備する
⑤安全性を確保する
⑥持続的に展開する仕組みを確保する
⑦地域と連携する

イメージ図
インフラツーリズムの段階
地域活性化への寄与
拡大の進め方
対応主体

■インフラツーリズムの理念

インフラツーリズムは、インフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すもの。

土木広報 ～インフラツーリズムの基礎～	**土木広報＋付加価値** ～魅力ある観光資源へ～	**(土木広報＋付加価値)×周辺観光資源** ～地域と連携した観光地域づくり～
		
土木広報としてインフラの見学会を実施している段階	インフラの見学会を磨き上げ、より広範囲から人を呼び込む段階	インフラと地域との連携により、周辺観光資源等にも立ち寄り、より一層地域活性化が図れる段階
施設管理者中心の取組でインフラの役割や意義を学ぶ社会科見学が中心。対象は地域住民や学校であることが多く、地域経済波及効果は大きくない	インフラの魅力向上によって、広範囲からより多くの来訪者が訪れるようになる。遠方からの来訪やインフラでの滞在時間増により地域での滞在時間が増え、地域経済波及効果が発揮されてくる	インフラに訪れる方々が、飲食店や周辺観光資源に立ち寄ったり、地域へ宿泊したりすることで地域での滞留がうまれ、滞在時間が増えることで消費も増え、より地域経済への波及効果が拡大する
インフラの本来機能を果たしつつ、様々な工夫を施してインフラ自体の魅力を高め、インフラを公開していく。インフラの魅力を発信し、「伝わる」広報を実施する	インフラの特性に応じた見せ方や見学ガイドといった付加価値を加え、インフラへの集客を進める。 対応要員を確保し、土日などにも公開できるような仕組みを検討する。	周辺観光資源や宿泊施設との連携や、周辺の他のインフラとも連携し、より特徴のあるインフラツーリズムを展開していく。一過性に終わらせずに持続性を確保し、インフラを訪れる方々を継続的に地域に呼び込めるようにしていく。より多くの人を受け入れるための安全対策を実施し、受け入れ枠を拡大していく
インフラの施設管理者	**地域と連携した組織・民間事業者（旅行会社など）**	

インフラツーリズムの基礎である土木広報

土木広報段階からのステップアップ
⇒“＋α”で付加価値を高める

魅力あるインフラから地域の観光資源としてのステップアップ
⇒周辺資源等との連携による経済波及効果の増加

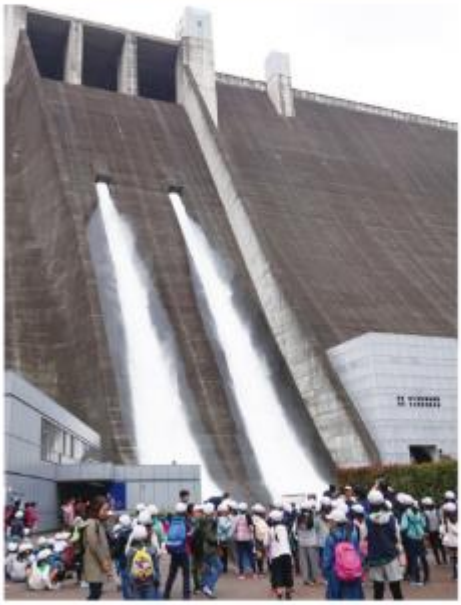
2 全体のレベルアップでインフラツーリズムを拡大

インフラの中には、見学会の参加に来訪者が年間 1 万人を越える施設がある一方で、年間の来訪者が数十名程度の施設もある。インフラへの来訪者数は、インフラの特性や地域特性によるところが大きく、目標とする人数は各施設毎に異なってくる。

インフラツーリズムの拡大が目指す方向性は、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験する魅力的なツアーを地域と連携して展開することにより、地域に人を呼び込み地域活性化に寄与することである。

そこで、各インフラがもつそれぞれの特性を活かして魅力を磨き上げ、インフラへの来訪者数を増やし、その来訪者がインフラだけではなく、地域の他の観光資源を訪れることにより地域経済を活性化させていくことが重要である。

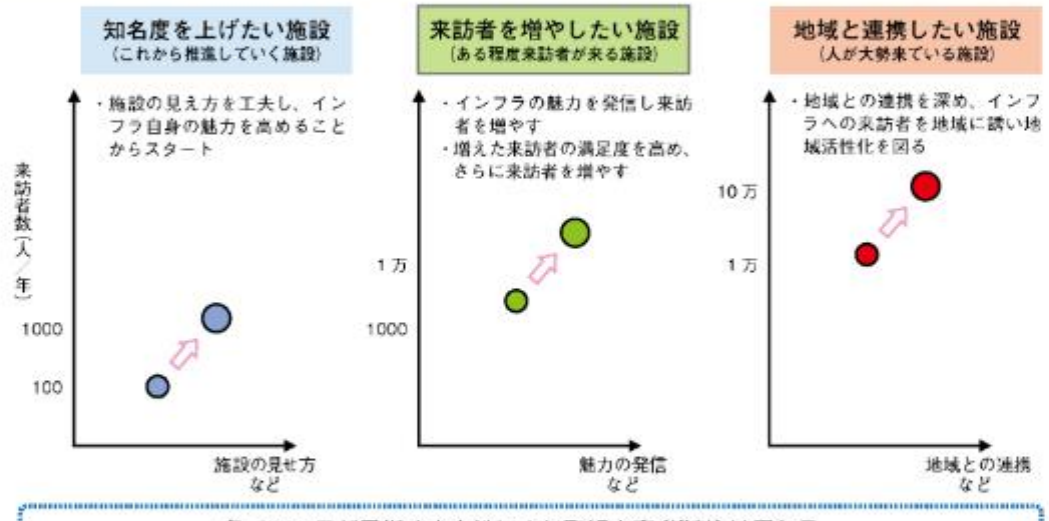
また、インフラツーリズムの拡大は、大都市近郊にあるインフラで実施するだけでなく、地方で地域活性化が望まれている地域では、観光資源のひとつとして周辺観光資源と連携しながら積極的に対応していく必要がある。



神奈川県にある宮ヶ瀬ダムにおける放流見学会
年間 10 万人を超える見学者が来訪する。

新潟県と福島県を結ぶ国道289号線の工事見学会
工事期間を縫って見学会を開催し、年間 1,000 人程度を受け入れている。
工事見学だけでなく周辺観光資源も巡るバスツアーで構成している。

それぞれがレベルアップしていくためには、現状でのインフラへの来訪者数を目安に、各インフラが目指す方向性に沿った取組から始めることが効果的。



■インフラの来訪者規模による進め方イメージ■

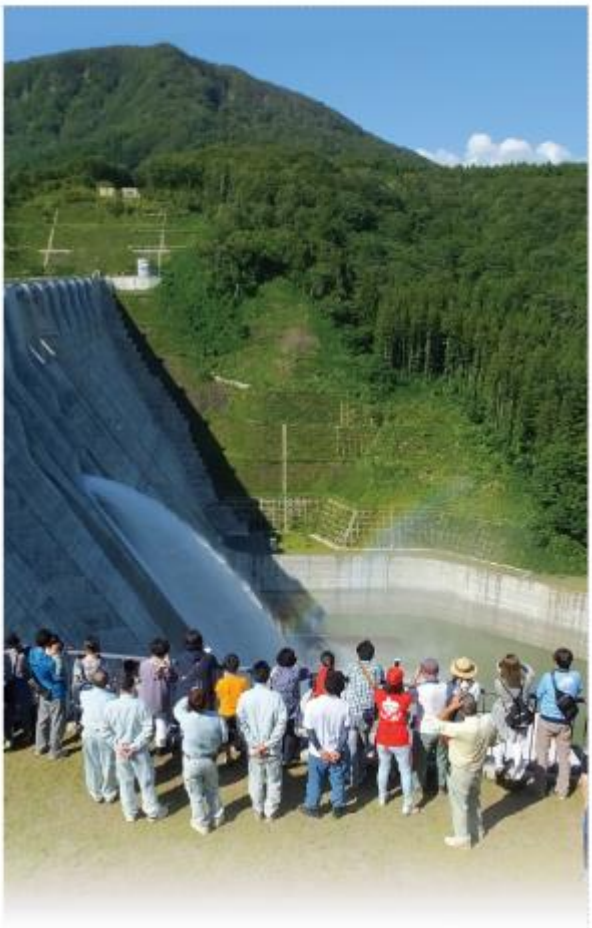
3 課題への対応 ～先進事例をヒントに～

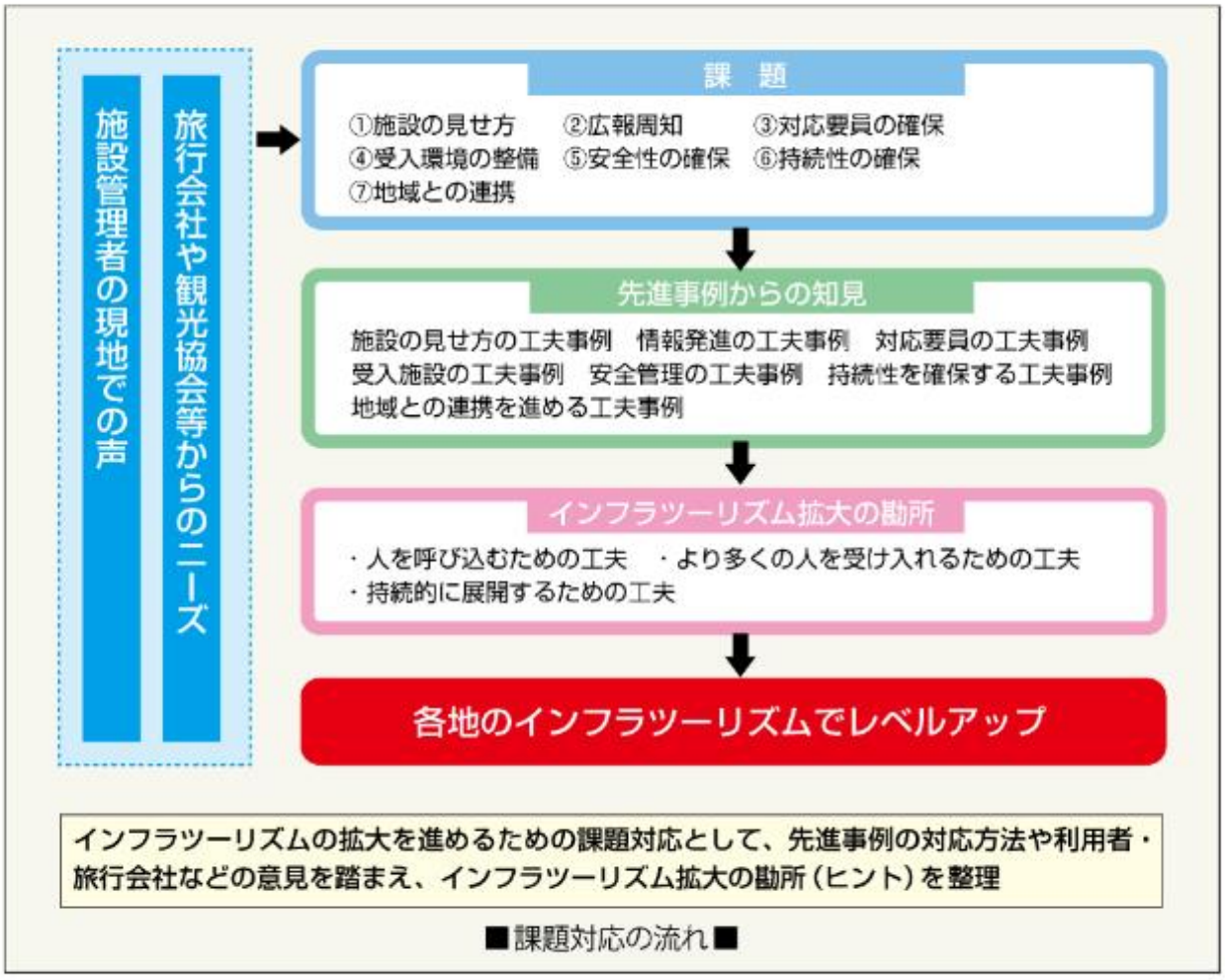
インフラツーリズムの拡大は、土木広報に加え、より楽しめるような付加価値をつけていくことから始めることが重要である。

そこで、インフラツーリズムを先進的に進めている事例の中から前章で整理した課題に対応する取り組みを、「勘所」として整理し紹介する。

拡大に向けた「勘所」は、人を呼びこむための工夫、より多くの人を受け入れるための工夫、持続的に展開するための工夫に分けて整理している。各インフラ毎に抱える現状や課題を確認し、それらに対応する先進的な取り組みを参考にして、各地で取り組める内容から実践していただきたい。

また、旅行会社や観光協会などからの声も踏まえながら、観光資源として魅力的になるようさらにレベルアップしていく必要がある。





インフラツーリズムの拡大を進めるための課題対応として、先進事例の対応方法や利用者・旅行会社などの意見を踏まえ、インフラツーリズム拡大の勘所（ヒント）を整理

■課題対応の流れ■

3 インフラツーリズム拡大の「勘所」

1 「勘所」の概要

この「勘所」は、土木広報として行われてきたインフラの見学会にどのように“＋αの付加価値”を付け加え、インフラツーリズムとして持続的に展開していくかのポイントを整理したものである。

「勘所」は、インフラツーリズムを拡大していくにあたっての課題を解決していくためのヒントとして人を呼びこむための工夫、より多くの人を受け入れるための工夫、持続的に展開するための工夫に分け整理している。

インフラツーリズムの理念を実現していくため、まず“インフラに来てもらい”、“そこでインフラを楽しんで役割や意義を学んで理解していただき”、そして“地域に滞在してもらえるよう”に「勘所」を押さえながらインフラツーリズムを展開していただきたい。

■インフラツーリズム拡大の「勘所」

区　分	アイコン	「勘　所」	「勘所」の内容
人を呼び込むための工夫		施設の見せ方	来訪者がインフラを楽しめる 見せ方や活用の仕方の工夫
		魅力発信	インフラの魅力や価値を 情報発信していくにあたっての工夫
より多くの人を受け入れるための工夫		対応要員の確保	来訪者の増加や土日開放に 対応するための対応要員確保の工夫
		受入環境の整備	トイレや駐車場等の受入環境を 整備・確保するための工夫
		安全性の確保	来訪者の安全を確保して インフラ見学を実施するための工夫
持続的に展開するための工夫		持続性の確保	一過性のイベントとしてだけでなく、 定期的に開催するための工夫
		地域との連携	地域と連携して魅力的なツアーとする工夫や 来訪者を周辺観光資源に導く工夫
		インバウンドへの展開	増加する訪日外国人を受け入れるための工夫

2 「勘所」の使い方

インフラツーリズムの実施にあたり、各インフラの現状や課題ごとに、次に着目すべき取組内容は異なってくる。

これからインフラツーリズムを推進していくインフラでは、どうやって付加価値を付けて魅力的にしていくかに力点を入れ、来訪者が多くなってきているインフラでは、来訪者がさらに増えるようインフラの魅力や価値を情報発信し、多くの来訪客が訪れるようになったインフラへの来訪者を、どうやって他の資源に立ち寄らせられるかなどに力を入れる必要がある。

インフラは現状や課題を確認し、それぞれの施設でインフラツーリズムの現時点の目指す方向性を決め、それに沿った「勘所」を見ていただき、実践できるところから取り組んでいただきたい。

■目指す方向性ごとの「勘所」

目指す方向性	まずは、この「勘所」から見て下さい	アイコン	記載ページ
知名度を上げたい施設 これから推進していく施設	**１番目「施設の見せ方」** ⇒ どこを、どのように見せれば魅力的になるのかを検討してください	施設の見せ方	P９ P10~14
	２番目「安全性の確保」 ⇒ 見学する場所の安全性をどう確保するのかを検討してください	安全性確保	P17 P21
	３番目「魅力発信」 ⇒ 魅力的になったインフラを情報発信しましょう	魅力発信	P９ P15~16
来訪者を増やしたい施設 ある程度来訪者が来る施設	**１番目「魅力発信」** ⇒ インフラの楽しみ方を情報発信して、さらなる PR を進めましょう	魅力発信	P９ P15~16
	２番目「対応要員の確保」 ⇒ 対応要員を確保し、土日などにも公開できる仕組みを検討してください	対応要員確保	P17 P18
	３番目「安全性の確保」 ⇒ 受入人数を増やした場合に安全性が確保できるかを検討してください	安全性確保	P17 P21
地域と連携したい施設 人が大勢来ている施設	**１番目「受入環境の整備」** ⇒ 更なる受入に向けて施設の使い方を工夫したり周辺と連携して対応しましょう	受入環境整備	P17 P19~20
	２番目「持続性の確保」 ⇒ 持続的に展開できる体制を整え、継続的に実施できる体制を検討しましょう	持続性確保	P22 P23~24
	３番目「地域との連携」 ⇒ 周辺観光資源等と連携して地域全体の来訪者数や滞在時間を増やしましょう	地域との連携	P22 P25~26

3 人を呼び込むための工夫

インフラを観光資源として活用するためには、迫力ある土木構造物の大きさを感じる場所を用意したり、普段見ることができないインフラの内部を見学できるようにしたりとインフラや空間を活用し、来訪者が“体感する･驚く･楽しむ”ための魅力的な『施設の見せ方』の工夫が必要である。

あわせて、『施設の見せ方』によって土木広報に付加価値を加えたインフラを売り出していくためには積極的に『魅力発信』していくことが必要である。

施設の見せ方

1 施設の魅力を高める見せ方

どこを、どのように見せると、“迫力があるか／驚きがあるか／楽しいか／…”等を考え工夫する

- □土木構造物の大きさやスケール感などが感じられる
- □「期間限定」「非公開空間見学」などプレミアム感がある
- □ひとつの施設だけでなく、ストーリーや関連性のある他施設と連携する
- □分かりやすい、面白い、勉強になるなど、説明に工夫がある

2 インフラが生みだした空間の活用

インフラがつくり出した空間や、景観の「場」としての活用方策を検討する

- □インフラやインフラがつくり出した空間（ダム湖、園地・緑地、管理用通路など）を活用する

魅力発信

1 施設管理者による情報発信

イベント情報は、分かりやすく、早めに周知していく

- □旅行を計画する方々に配慮して、放流の実施日などのイベント情報は早めに公表する
- □施設管理者のホームページのトップでインフラツーリズムの情報をお知らせする
- □分かりやすいチラシをつくり、PR する

2 多様な主体との連携による情報発信

情報発信は“情報を伝える”から“魅力や価値が伝わる”へ転換し工夫する”

- □地元の自治体と連携して、より魅力的な情報発信を行う
- □民間事業者と連携して、より魅力的な情報発信を行う

施設の見せ方１　施設の魅力を高める見せ方

非公開場所の活用

◆非日常空間の体感

（本州四国連絡高速道路株式会社　明石海峡大橋）

支間長と主塔高さが世界一の吊り橋である明石海峡大橋の主塔に登頂するツアー「ブリッジワールド」を実施している。建設に関わった公団や建設会社職員 OB から橋梁の建設技術の説明を受けることで、技術や土木施設の理解につなげている。一般に開放されていない管理用通路、管理用エレベーターを使用して、海上約 300m の主塔からの絶景パノラマを眺めることができる。

管理用エレベーターで主塔に登頂

◆非公開の立坑を公開

（関東地方整備局　首都圏外郭放水路）

「地下神殿」のキャッチフレーズで貯水槽の見学会を行ってきたが、2018 年度に社会実験として民間事業者による運営が始まったことから説明要員などの確保も可能となり、非公開エリアであった立坑の公開を一部開始した。見学者からは「有料でも迫力ある立坑が見られて良かった」との声があげられている。

公開が始まった立坑

◆天候に左右される空間開放への対応

（西日本高速道路株式会社　関門自動車道 関門橋）

本州と九州を隔てる関門海峡に架設された吊橋で、通常の見学コースでは吊橋を支える主塔の塔頂まで上がれる。悪天候の場合は、代わりに関門トンネルの「水抜立坑」が見学できる。

天候に左右される箇所では代替案を用意すると公開の幅が広がる。

関門橋の塔頂部と水抜立坑に通じるトンネル

多彩なコンテンツの提供

◆多彩な見学ツアーを開催

（関東地方整備局　八ッ場ダム）

工事事務所と道の駅が主催して、個人向け、団体向け、そしてマニアから一般の人までを対象とした 10 コースの多彩なツアーを実施している。その一つとして浅間山噴火から地域の物語を語るジオパーク見学会も行われてる。複数のツアーがあるため、自分の好きなコースを選べるなど選択の幅が広がり来訪者の増加につながった。

10コースのツアーの一つであるジオパーク見学会

◆夜間の工事現場見学会も開催

（関東地方整備局　八ッ場ダム）
（四国地方整備局　横瀬川ダム）

夜間の工事は、照明が多数点灯され、通常の工事現場とはまた違った幻想的な景観を楽しむことができる。

夜間の開催により、見学者の周辺地域への宿泊も期待される。

八ッ場ダム夜間工事

横瀬川ダム夜間工事

◆来訪者の興味に合わせた見学コースを用意

（沖縄総合開発局　漢那ダム）

漢那ダムでは、来訪者の興味に合わせて、見学コースが選べるようになっており、説明内容を小中学生用、高齢者用、技術者用などに分けて用意し、高齢者用は体への負担が少なくなるようなルートを選定したり、技術者用はより専門的な説明をしたりと、来訪者の知的好奇心や体力の程度にあわせ実施している。

専門家の場合の案内風景（監査廊を奥深くまで移動）

◆工事の進捗を止めない工事見学会の開催

（北陸地方整備局　国道 289 号八十里越）

国道 289 号の「八十里越（はちじゅうりごえ）」と称される山間部での工事は、豪雪地帯であるため、工事全体が遅れる懸念があるため、特に見学会のために工事を休止することができない。そこで工事が行われない休日に見学会を開催し、工事の進捗に影響がでないように配慮している。

休日に実施される工事の見学会

見せ方の工夫

◆管理用照明を活用したライトアップ

（関東地方整備局　湯西川ダム）

ダムを始めインフラ施設は施設管理に必要な照明が備えられており、これを点灯するだけで夜景を演出する観光源となることがある。現在、湯西川ダムでは、このライトアップを地域活性化に活かせないかを検討している。

湯西川ダムライトアップ（試験点灯）

◆視点場の発掘

（関東地方整備局　川俣ダム）

ダムの全景が見える場所を探し、ダムカード型のフレームを設置しインスタ映えの工夫をしている。

ダムの全景が見える視点場

◆ ダム堤体でのプロジェクションマッピング

（近畿地方整備局　天ヶ瀬ダム）

天ヶ瀬ダムでレーザー光線ショーをやりたいという近畿地方整備局の若手職員のアイデアをプロジェクションマッピングに置き換えて実現するため、京都精華大学の協力を得て映像を作成し、2 日間で 1200 人が訪れるイベントを開催した。

堤体をスクリーンとして活用

組み合わせによる魅力UP

◆ インフラを組み合わせて魅力アップ

（長野県小谷村　ドボクアート砂防堰堤めぐり）

小谷村には、土石流を防ぐために多数の砂防ダムが整備されている。このうち、特徴的な 10 基を厳選し、ドボクアートと見立てて見学ツアーを実施している。様々な砂防施設を一度に見られることから、マニアを中心に人気がある。

さまざまなタイプの砂防堰堤

◆ 複数の事務所で合同インフラツアーを実施

（中国地方整備局 中国技術事務所＋休山トンネル工事見学）

中国技術事務所では、インフラツアーを企画するなかで、中国技術事務所の防災体験メニューの他にも楽しんでもらえるコンテンツがないかと考え、周辺の事務所と連携して魅力あるインフラツアーが企画できないかを模索した。

その結果、広島国道事務所で行っていた休山トンネル工事の見学とセットでツアーを実施することができた。

中国技術事務所における降雨体験

休山トンネル工事の見学

コラム　インフラをダイナミックに見せる視点場を探そう

ダムなどの巨大土木施設は近くで大きさを感じられることも重要だが、写真撮影で全景が入らない場合がある。

少し移動すれば、全景が撮影できる視点場が発見できることもあるため、インフラが美しく見える視点場を探し、開放できるように整備したり、その場所がどこにあるか周知したりすること。

（例）通常の視点場からの写真（左）は、手前に建築物が写り、ダム全体が撮影できない。しかし、数十ｍほど離れるとダムの全景（右）が撮影できる。

その 1

⑤説明の工夫

◆絵本で作って子どもにも伝わる広報

（四国地方整備局　横瀬川ダム）

事務所の女性職員が自分の子どもに仕事内容を伝えたいと職場の女性たちで紙芝居をつくるプロジェクトを立ち上げた。

紙芝居の評判が良かったため絵本にして、図書館に配置し、見学者に配り、ホームページでダウンロードできるようにした。絵本を読んでから見学会に来た子どもは、ダムの専門用語を口にしながら楽しんで見学している。

絵本の表紙

ダム堤体建設を紹介する絵本の１ページ

◆地元住民が作成した紙芝居による実体験のガイド

（九州地方整備事務局　耶馬渓ダム）

2018 年 8 月、9 月に中津耶馬渓観光協会主催によるダムインフラツアーが初めて実施され、耶馬渓ダム見学について河川協力団体と連携して実施。

見学時には、河川協力団体が耶馬渓ダム建設当時の話を実体験に基づいて紙芝居で説明した。

紙芝居でダム建設当時の出来事を紹介

◆紙芝居を使った説明

（関東地方整備局　川治ダム）

インフラ施設の説明をする時に、わかりやすいように図や写真を用いて説明する。紙芝居のように、後ろにガイドする内容を書いておくと、説明がスムーズにできる。

ツアーを開催する前には国土交通省の事務所がダムの勉強会を実施している。

ダム見学中に利用する紙芝居

◆聞き取りやすいよう無線イヤホンでガイドを実施

（本州四国連絡高速道路株式会社
明石海峡大橋）

大勢を案内するときや、工事現場、風が強い所などを案内する時は説明が聞き取りにくいことがある。明石海峡大橋では最大 42 名を案内するため、無線イヤホンを装着して、少し離れていても説明が確実に聞き取れるようにしている。

無線マイクによる解説

参加者全員に渡す無線イヤホン

施設の見せ方２　インフラが生みだした空間の活用

インフラが生み出した空間をアクティビティの場として活用

◆津軽白神湖（津軽ダム湖）における水陸両用バスの運行

（東北地方整備局　津軽ダム）

当初利用していた進入路では、ダムの水位が低下すると利用できなくなるとともに、スピードを上げて水面に入ることが難しくスプラッシュ（水しぶき）が小さかった。
そこで、水位が低下しても利用できるようにと、西目屋村が進入路の改良を行い、今では、スピードを上げて水面に入れるためスプラッシュが大きく利用者を楽しませている。

津軽白神湖へのスプラッシュ

◆ダムの環境を生かしたトライアスロン大会の実施

（中国地方整備局　尾原ダム）

「さくらおろち湖トライアスロン大会」はスイムはダム湖を泳ぎ、バイク ＆ ランは風光明媚なダム湖外周を巡るコースで、ダム湖は波がほとんどなく泳ぎやすいため、人気のコースとなっている。

ダム湖であるさくらおろち湖で1.5kmのスイム

コラム　インフラが生み出す空間の新たな活用例が増えてます

インフラが生み出す空間を新しい使い方で楽しむ事例が増えている。

関連イベントとは別に新設道路を開通までの間、貸し出しをしたり、ダム堤体の直下でコンサートを行ったり、ダムの監査廊や廃トンネルを日本酒やワインの貯蔵所としたりと様々な活用がなされている。このような使い方をすることで当初はインフラの主たる目的ではなくても、インフラがあるからこそ楽しめる使い方でインフラに興味を持つきっかけになることが期待できる。

工事完了から開通までのあいだ特別開放し、松戸市青年会議所などが音楽会等のイベントを開催した。

未供用区間の活用
（東日本高速道路　東京外かく環状道路）

ダムの環境を活かしたコンサート
（東北地方整備局・鳴子ダム）
建設 60 周年を記念としてダム下部をトレッキングするツアーや、アーチダムの堤体の反射を利用したコンサートを開催した。

その２

魅力発信 1　施設管理者による情報発信

情報発信の工夫

◆「地下神殿」に見立てブランド化

（関東地方整備局　首都圏外郭放水路）

首都圏外郭放水路をアピールするために「地下神殿」という興味をひくネーミングをつけることにより、によりマスコミにも取り上げられることも多く広報効果が大きい。

また、防災地下神殿のロゴを作成したり、ガイドの制服をイメージに合わせたりと、地下神殿のイメージをブランド化する戦略を行っている。

「地下神殿」と呼称し、ロゴや制服をそれにあわせたデザインとしている

◆観光放流の年間予定の公表

（関東地方整備局　宮ヶ瀬ダム）

キラーコンテンツである観光放流やイベントの年間予定を、わかりやすいカレンダー形式で年度当初に公開していることで、旅行や見学のスケジュールが立てやすくなり、小学校や幼稚園をはじめ、様々な団体がバスを借りて訪れている。

他のダムでも、点検放流も事前にスケジュールを公表することで、イベントとして盛り上がりを見せている。

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2018年度「宮ヶ瀬ダム観光放流」スケジュール（8月抜粋）
青は定例観光放流、赤はイベント放流

◆観光案内所での手づくりチラシの配布

（近畿地方整備局　天ヶ瀬ダム）

管理事務所の女性職員が手づくりでダム見学を案内するチラシを作成し、ダムから約3 km の距離にある京阪宇治駅構内の観光案内所で配布している。

手書きのチラシで暖かみのあるチラシになっており、周辺の見どころと共にダムを紹介し、ダムへの散策を促している。

「宇治のもう１つの観光名所天ヶ瀬ダム」としてPR

◆ホームページトップで大きなアイコンを掲示

（関東地方整備局　八ッ場ダム）

八ッ場ダム工事事務所のホームページのトップ画面の先頭に「やんばツアーズ」の大きなアイコンが貼られており、すぐに見学会の案内ページに行きつくことができる。

目につきやすい色やアイコンで分かりやすく伝えることが重要である。

ホームページのトップページに見学会案内のアイコンを配置

魅力発信２　多様な主体との連携による情報発信

様々な媒体での紹介で認知度アップ

◆鉄道会社の観光キャンペーンとの連携

（関東地方整備局　川治ダム）

鉄道会社の旅行キャンペーンに、ダム見学の企画を地元旅館組合などが提案し採用され、人目につきやすい駅構内でのダム見学のポスターが掲示されるなど鉄道沿線でのＰＲが進んだ。

また、新幹線の座席に設置された冊子でも紹介されるなど、鉄道会社との連携により施設管理者だけではできない方法で大きく広報してもらうことができた。

旅行キャンペーンの駅貼りポスター

◆行政パンフレットとの連携

（関東地方整備局　宮ヶ瀬ダム）

宮ヶ瀬ダムを観光資源と位置づけて、神奈川県が作成する広域観光パンフレットに掲載された。

パンフレットの表紙に宮ヶ瀬ダムの写真が掲載され、周辺観光資源とあわせてダムが紹介されている。

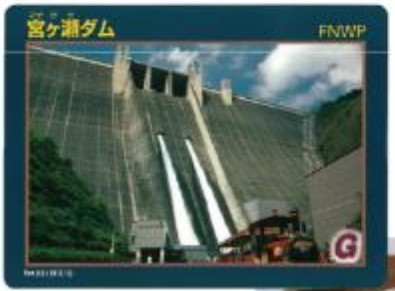
また、鉄道会社から宮ヶ瀬ダムハイキングパスが発行されるなど、公共交通機関で行けるダムとしてチラシなどでも広報されている。

地元行政が作成した観光パンフレット

コラム　ダムカードやダムカレーで認知度アップ

ダムカードやマンホールカード等のインフラカードがコレクターを中心に人気があり、ダムを訪れる一つのきっかけとなっている。

ダムをモチーフにしたダムカレーなどを提供する飲食店がダム周辺で増えており、ダム水源地域の方々が地域活性化に向けて、それぞれのダムごとに工夫をこらした一品をメューとして出している。



ダムカード（統一デザイン）は 2018 年 4 月時点で 668 箇所で配布中

宮ヶ瀬ダム放流カレーはソーセージを抜くと湖に見立てたカレーのルーが放流される。

その３

4 人を受け入れるための工夫

より多くの人を受け入れるためには、見学会の受け入れ枠を拡大することが必要である。

そこで、インフラを案内する対応要員を確保し、土日・休日などでも対応できるようにしていくこと、トイレなどの受入環境を整えること、非公開部分を案内することから見学者の安全性の確保することなどが重要となってくる。

対応要員の確保

民間事業者との連携

観光需要が高い土日祝での開催や受け入れ枠拡大に向けて、施設管理者主体の対応が難しい場合は、民間事業者、NPO、ボランティア等と連携する

□土日･休日に見学会が開催できる体制が整えられる
□民間事業者、NPO、ボランティア等と連携できる

受入環境の整備

1 現場における受け入れの工夫

参加人数が増えていく際に、現状の施設環境のなかで対応するために工夫する

□見学コースを分けて対応する
□一度に案内できる施設環境（エレベーターの収容人員など）と規模を把握している

2 周辺施設との連携

インフラ側でトイレや駐車場等を充分に整えることが難しい場合は、周辺施設と連携する

□各施設での受入環境の収容対応力を把握している
□周辺施設にある受入施設（トイレや駐車場など）の情報を把握している

安全性の確保

事故を回避する対策

観光資源としての活用が想定されていないインフラの内部などを開放する場合は充分に安全性を確保する

□事故を回避するための対応を行っている
□事故があった場合の対応を行っている

対応要員の確保　民間事業者との連携

民間事業者による対応

◆民間事業者による見学ツアーの実施（1）

（関東地方整備局　首都圏外郭放水路）

２０１８年より河川空間オープン化の制度を利用し民間が営業活動ができる仕組みが構築された。

そこで、社会実験として見学会運営を民間会社が実施。民間が実施することで土日･休日も見学会を開始し、一人 650 円と有料となったが、昨年を上回る利用がある。

民間会社の社員による案内

◆民間事業者による見学ツアーの実施（2）

（関東地方整備局　川治ダム）

社会実験として、職員が立ち会わずに、民間事業者のみで、ダム見学ツアーを実施。ツアー料金は、一人 3,000 円としている。

なお、ダム堤体やキャットウォークを案内することから、事前に国土交通省職員による安全管理や施設案内の研修を受けている。

地元エコツアー会社による
キャットウォークの案内風景

◆施工会社職員のノウハウを活かす

（四国地方整備局　横瀬川ダム）

夜間工事は堤体建設の作業が中心となり、周辺工事の多くが休止する。そこで、夜間見学では、休止した現場の中まで案内し、迫力ある現場を見せている。

このような迫力ある見せ方は、現場状況をよく知る施工会社職員が、休止している現場のうち、どこの現場が見て面白いか、迫力あるかを考え、臨機応変に現場の安全を確保させ案内していることから可能となる。

巨大クレーンを真下から見学

ボランティアによる対応

◆認定ボランティアによる対応

（中部地方整備局　駒ケ根高原砂防フィールドミュージアム）

『駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム運営協議会』（会長：駒ヶ根市長）が一定の研修を積んだボランティアを認定ボランティアとして任命し、フィールドミュージアムや砂防施設（太田切川床固工群）の説明をしている。

砂防施設の見学風景

受入環境の整備 1　現場における受け入れの工夫

施設の受入能力に合わせた工夫

◆ エレベーターの定員に合わせた工夫

（津軽ダム、川治ダム　その他）

管理用通路やエレベーターでは一度に受け入れられる人数に制限があり、一度に数十名の見学者を移動させることが難しい。

そこで、エレベーターの定員にあわせた班を編成し、直ぐにエレベーターに乗る班と、まずは施設概要を聞く班などに区分しエレベーターを利用する順番をずらす工夫を実施している。

エレベーター待ちの状況

◆ 事前説明の場所の確保

（関東地方整備局　湯西川ダム）

湯西川ダムでは監査廊に入る前のエレベーターホールに解説パネルを掲示している。監査廊に入ると広い場所が確保できないため、最初に施設の概要をパネルなど用いて説明する場所を確保している。

パネルを用いて概要を解説

バリアフリーへの対応

◆ 段差を解消するスロープの準備

（関東地方整備局　川治ダム）

段差を解消して車いす等への対応ができるように携帯用スロープを準備している。

車いす用の段差解消スロープ

コラム　海外事例　フランス　ミヨー橋の見学ツアー

フランスの高速道路橋の見学ツアー。見学コースは、橋の手前にあるサービスエリアから歩いて橋を眺めながら約 40 分ガイドの説明を聞く。

途中に橋の構造が分かる実物大模型が配置され見学できない部分についても理解できるように工夫されている。

ガイドは、フランス語以外に英語とスペイン語にも対応している。また、見学ツアーは工事段階の 2001 年から始められている。

2004 年に開通した高速道路橋　橋長 2,460m
見学ツアー料金　大人　€4.50（約 570 円）

資料：https://www.leviaducdemillau.com/fr/visiter/laire-du-viaduc-de-millau より

その 4

受入環境の整備２　周辺施設との連携

他施設との連携

◆無料送迎バスを運行して駐車場不足に対応

（独立行政法人水資源機構　矢木沢ダム）

点検放流を見に来る人が多く、ダム周辺で駐車スペースを確保することが難しい。そこで、ダムから離れた場所に駐車場を確保し無料バスを運行し放流エリアまで送迎。駐車料金は 1,000 円で、みなかみ町の環境保護基金として使用。

シャトルバス乗り場

◆トイレの少なさに対する対応

（東北地方整備局　津軽ダム）

ダム堤体内にはトイレが無いため、見学前にトイレを済ませるようにと促している。このため、団体の場合はトイレの利用に時間がかかり、見学時間が充分確保できなくなることがある。

そこで、ダム見学の申込時に来訪者の代表者に「ダムにはトイレが少ないので、事前に立ち寄り施設（道の駅など）などで用を済ませることが時間を有効に利用できる」との情報を提供しトイレの少なさに対応している。

管理棟に一般の人が利用できるトイレはあるが、団体には対応していない

◆見学ツアーの発着地点を周辺施設とする

（関東地方整備局　湯西川ダム）

湯西川ダムでは、地域活性化として水陸両用バスの導入が行われた。そこで、『道の駅』と『水の郷』（温泉施設のあるドライブイン的な施設）の 2 箇所を水陸両用バスの発着場にしており、最初からダムに訪れる来訪者を周辺施設に立ち寄らせる工夫をしている。

水陸両用バスの発着地点となる道の駅

コラム　海外事例　イギリス　マージートンネルの見学ツアー

イギリス･リバプールにあるマージー川の河底を貫く地下トンネルの見学ツアー（クイーンズウェイトンネル換気塔）。

排気口の巨大なファンを見ながら、1934 年に完成した地下トンネルや排気口の建設方法や当時のコントロールルーム等の説明を受ける。

なお、トンネル内を見学するため 10 歳以下の子供、歩行が難しい方、呼吸器官系に問題のある方、視力などに問題のある方は参加不可。見学ツアーは、2006 年から始められている。

資料：Mersey Tunnel Tours パンフレットより

1934 年に完成した河底を貫く地下トンネル（道路）
延長：3,226m
見学ツアー料金 大人 £6.00(約 900 円)

その 5

安全性の確保　事故を回避する対策

見学中の安全確保

◆転落防止柵のすき間を塞ぐ
（関東地方整備局　川俣ダム）

ダムのキャットウォークを開放する際、既存の防護柵のすき間が広いことが確認された。

そこで、子どもの体が抜け落ちないように防護柵に網フェンスを貼って落下防止対策を実施している。

管理用の柵では隙間が大きく危険なため網フェンスで対応

◆落下物の防止策
（本州四国連絡高速道路株式会社　明石海峡大橋）

海上約 300mの高さの吊橋主塔上からの落下物は下を走る車と接触し、重大な事故を発生させる可能性がある。

そこで、見学ツアーに持ち込む携帯電話やカメラなどは首からぶら下げるストラップを付けさせ落下対策を実施している。

ストラップは見学前に貸し出される

見学会の開催基準

◆上陸ツアー中止基準の明確化
（関東地方整備局　第二海堡上陸ツアー）

海上にあるインフラを訪れることから、上陸ツアー中止基準が明確に設定されている。

この基準を１つでも超える気象海象であれば上陸ツアーは中止となる。課題として、降雨･降雪によるツアー催行判断の明確化が必要となっている。

①風速 10m/S 以上
②波高１m以上
③視程 2,000m 以下

第二海堡上陸ツアーの中止基準

事故への備え

◆安全対策会議の開催
（北陸地方整備局　立山カルデラ砂防）

立山砂防カルデラの見学会は、カルデラ内を散策するため、警察、消防、施設管理者、県博物館の関係者からなる「安全対策会議」を設立し、現地を歩き危険箇所などの点検を実施している。

砂防見学のように野外での行動が多い場合は、施設管理者だけでなく関係機関との連携が重要となってくる。

野外での砂防施設見学風景

コラム　危機管理対策は？

見学ツアーは、インフラ施設の内部に入るためテロ活動などへの対応も望まれる。この対応として以下のような対策がなされている。

○見学ツアーの最後に職員を配置し人数確認と施錠確認を行う
○テロ対策実施中であることを記載した張り紙を貼付する
○見学に大きな荷物を持ちこめないようにする
○重要な機器や装置の写真を撮らせない
○見学通路などに監視カメラを設置する

エレベーター入口には、不審行動や不審物持ち込みを発見した場合は警察に通報することが書かれている。

その6

5 持続的に展開するための工夫

インフラツーリズムを拡大する上で、イベント的に見学会を開催するだけでなく、その見学会を持続的に実施していき地域の新たな観光資源としていくことが必要である。

そのためには、地域の方々（地元自治体・地元関係団体・地元住民など）からインフラを活用して行くことへの理解と合意を得て、地域の方々と連携し継続的に見学会が開催できることが望ましい。

持続性の確保

1 地域の協議会等での運営

インフラの観光資源としての活用について、地域の方々と連携し理解を得ながら実施していくため、地元関係機関等からなる協議会等により運営する

□インフラを利用していくことに対して、地域の方々の理解や合意を得ている
□一過性のイベントではなく継続して見学会を開催している

2 DMOや旅行会社等との連携による継続性確保

DMOや旅行会社等のノウハウを活かし幅広くインフラツーリズムを展開していく

□旅行会社等との連携は公平性や透明性が保たれている

地域との連携

周辺観光資源との組み合わせ

インフラツーリズムを地域活性化に繋げるため、観光客が地域に滞留するように周辺観光資源と連携する

□地域の関係機関（地元自治体の観光系部署、観光協会、DMO、地域づくり関連のNPO法人など）と日頃から連携がある

インバウンドへの展開

多言語化対応と観光資源としての魅力発信

訪日外国人旅行客にもインフラツーリズムを楽しんでいただくため、日本のインフラの機能性や土木技術の高さ等が伝わる工夫をする

□多言語化対応がなされている
□自国では味わえない日本らしさや景観が楽しめる

持続性の確保 1　地域の協議会等での運営

協議会などによる合意

◆協議会組織等の活用による対応（1）

（関東地方整備局　首都圏外郭放水路）

首都圏外郭放水路の見学ツアーは、2018 年から民間事業者が有料で運営している。これは、河川空間オープン化の制度を活用し、民間が河川敷地で営業活動を行うことを地域合意として認めたことによる。

なお、地域合意は、国土交通省・春日部市・商工関係団体・観光協会で構成する協議会で検討された。

民間事業者による非公開エリアでの見学会ツアー

◆協議会組織等の活用による対応（2）

（関東地方整備局　湯西川ダム）

湯西川ダムでは、水陸両用バスを運行しダム湖遊覧とダム堤体見学を実施している。この活動は、毎年開かれる「水陸両用バス導入協議会」で地域関係機関等の合意をもって実施されており、この合意により民間事業者が水陸両用バスの運行とダム見学ツアーを実施している。

湯西川湖へのスプラッシュ

◆水源地域ビジョンなどの推進組織の活用

（中国地方整備局　尾原ダム）

尾原ダムでは住民を中心に結成された「NPO 法人さくらおろち」がダム見学など、ダムをフィールドとして様々な活動を行っている。

これらの活動は、国土交通省・県・近隣市町・地元関係者らからなる水源地域ビジョン推進委員会によって承認され地域の合意として活動を展開している。

尾原ダムの全景

コラム　海外事例　スイス　グランド・ディクサンス・ダムの見学ツアー

グランド・ディクサンス・ダムは、重力式コンクリートダムの中で世界一の高さを誇る。このダム直下流には、ホテルやロープウェイ（ダム天端と下を結ぶ）があり、周辺のトレッキング観光の拠点として利用されている。

ダムの監査路を見学するガイド付きツアーが開催されている他、家族向けには監査路等を利用したゲームやクイズを組み合わせた見学ツアーもある。見学ツアーは、1980 年代から始められている。

資料：http://www.grande-dixence.ch/ より

1961年に完成した発電用ダム
堤高：285m
見学ツアー料金
大人　chf10
（約 1,100円）

その 7

持続性の確保２　DMOや旅行会社等との連携による継続性確保

旅行会社の活用

◆公募による見学ツアーの催行

（北海道開発局　公共施設見学ツアー）

道内における1年間の公共施設見学ツアーの催行枠を公表し、旅行会社からの催行希望を受け付ける。催行希望に重複が無ければ申し込んだ旅行会社が見学ツアーを実施。なお、重複の場合は抽選とし公平性を確保している。

見学ツアーの企画・募集・催行は旅行会社が独自に実施している。

公共施設見学ツアーの募集情報
（北海道開発局のホームページより）

2019 年度実施の公募スケジュール

2018 年 12 月 18 日～2019 年 1 月 15 日	旅行会社等からの申し込み
2019 年 1 月 21 日	施設選択会
2019 年 4 月より	順次見学ツアーを実施

◆旅行会社が発案したインフラツアー

（東北地方整備局　気仙沼港横断橋工事）

沖縄に本社がある旅行会社の仙台支店が、東北から沖縄に誘客をするだけではなく、東北の復興状況やインフラ整備の意味を理解するために、気仙沼湾横断橋（仮称）の工事現場見学を含むツアーを企画した。企画立案は、国土交通省が行ったインフラツアーについての講演を聞いたことがきっかけで、地元ラジオ局とタイアップし、番組を通してツアーの募集を行った。

旅行会社が工事現場見学の許可を東北地方整備局の工事を担当する事務所に依頼した所、国の施策と合致する点もあり、ツアーを受け入れることとし、工事現場の見学内容の提案と、現場での案内を事務所が行った。

ツアーでは酒蔵の見学や気仙沼在住のシンガーソングライターのライブも行われた。

工事中の気仙沼港横断橋の
橋脚の大きさを体感

コラム　旅行会社等への情報提供は、6ヶ月～3ヶ月前までが望まれる

旅行会社などによる民間ツアーは、インフラ側で実施するイベント情報（非公開部分の開放や放流情報など）は、6ヶ月～3ヶ月前までには把握していないと旅行商品として販売しづらいとのこと。放流などは、天候によって延期や中止になることもあるが、情報は早めに公開していくことが望まれる。

インフラツアー企画を情報提供（施設管理者・6ヶ月前）
→ 他の見学地点・宿泊場所・移動手段等との調整（旅行会社）
→ 宣伝媒体印刷 配布・参加者募集（旅行会社・3ヶ月前）
→ ツアー催行（旅行会社＋施設管理者）

■インフラツアーの企画・募集・催行の流れの例

その8

地域との連携　周辺観光資源との組み合わせ

周辺施設との組み合わせ

◆工事現場見学と周辺資源の組み合わせ

（北陸地方整備局　国道 289 号八十里越）

工事現場（トンネル･橋梁）の見学にあわせ、周辺観光資源をバスで巡るツアーを地元自治体が企画し、民間旅行会社が催行している。

工事見学会と組み合わせる観光資源をツアー毎に変更し、インフラ見学に来た人達に、地域の色々な観光資源を見てもらえるようにしている。

現場見学の様子

◆遊覧事業と歴史的土木施設の組み合わせ

（近畿地方整備局　三栖閘門）

伏見観光協会が運行する十石舟、三十石船の遊覧コースに三栖閘門と三栖閘門資料館を加えて、遊覧の見所の１つとしている。

閘門としての役割を終えた歴史的な土木施設を観光資源として取り込み、新たな観光ルートが地域との連携によって生み出されている。

遊覧船と三栖閘門

◆DMOによるインフラツーリズム商品の開発

（近畿地方整備局　天ヶ瀬ダム）

地元市町村の観光振興を図るために設けられた「お茶の京都DMO」が、集客力のある天ヶ瀬ダムに着目し、京都府南部に位置する南山城村にある高山ダムとセットにして地域を銃弾する工程として旅行商品化した。ダムをテーマに地域を巡り、地域の道の駅で買い物をしてもらい、温浴施設でダムカレーを考案し提供している。

地域に根ざしたDMOがコーディネートすることにより、様々な地域主体の連携が可能となっている。

※DMO（デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション）：
観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人のこと

天ヶ瀬ダムと高山ダムを
同時に見学するツアーのパンフレット

◆周辺資源とのセット販売

（沖縄総合事務局　北部ダム統合管理事務所）

地元旅行会社が、漢那ダムの見学と海水淡水化センター、沖縄軽便鉄道、恐竜パークとのセットでツアーを企画し販売している。

他にもダム見学といちご狩り、酒造工場、土産物店への立ち寄りなど様々な組み合わせのツアーがあり、周辺資源との連携が図られている。

漢那ダム見学バスツアーのパンフレット

周辺施設への誘い

◆ 地域の店で利用できる割引券を配布

（関東地方整備局　首都圏外郭放水路）

首都圏外郭放水路を見学に来た人に、近くにある道の駅内の店舗で利用できる割引券を提供し、インフラ施設の来訪者を地域の他施設に誘導している。

近くにある道の駅で利用できる割引券

◆ 宿泊施設との連携（１）

（独立行政法人水資源機構　下久保ダム）

通常は、立ち入り禁止区域となっている空間を、地元の宿泊施設に泊まった人のみに開放するという特典を設けて、宿泊需要に結びつけようとしている。

立ち入り禁止区域からの眺め

◆ 宿泊施設との連携（２）

（独立行政法人水資源機構　矢木沢ダム）

ダムの放流イベント時には、ダム周辺に充分な駐車場が確保できないことから、下流のスキー場などの駐車場を活用してダムとの間をシャトルバスで送迎している。

町内の宿泊施設に泊まった者には、優先的にシャトルバスに乗れるチケットを発行し、宿泊利用を促している。

シャトルバスを待つ列

町内宿泊者限定の
シャトルバスの優先乗車券

◆ やんばる９ダムすたんぷラリー

（沖縄総合事務局　北部ダム統合管理事務所）

沖縄県の北部には９つの国が管理するダムがある。

このダムを全て見てスタンプとダムカードを集めると認定書付きの専用カードフォルダーがもらえる。

９つのダムを巡るため、地域への滞在時間が長くなり、地域への経済波及も生まれる。

スタンプラリーの台紙／専用カードフォルダー

インバウンド　多言語対応と観光資源としての魅力発信

多言語による解説

◆スマートフォンアプリ活用

（関東地方整備局　首都圏外郭放水路）

スマートフォンのアプリを自分のスマートフォンにダウンロードすると英語、中国語（簡体字、繁体字）の説明が見られるようになる。音声による案内も可能である。

このアプリは通訳を通しての聞き取りや専門用語が難解なため、日本語の理解が難しい訪日外国人のために考案された。事前に予習したり見学会の後で更に詳しく知りたい方への情報提供の役割りも期待している。

さまざまな言語で解説

日本らしさとの組合せ

◆日本ならではの体験とインフラ見学をセットで企画

（関東地方整備局　湯西川ダム）

日光市の柴山地域を拠点にしている旅行会社では、積極的にインフラツアーへ外国人を誘致している。ツアーのメニューは、猟師の話を聞き、鹿肉を食べるプログラムをはじめ着物体験、日本舞踊観賞といった日本ならではのメニューと水陸両用車を使ったダム見学をセットにしている。事前にそれらについて、英語での解説資料を用意している。

山村におけるインバウンドの可能性を追求

インスタ映えする写真で誘客

◆SNS で海外まで情報が広がる可能性

（本州四国連絡高速道路株式会社　明石海峡大橋）

明石海峡大橋ブリッジワールドでは日本語と英語によるホームページが用意されているが繁体字や簡体字での説明ページはない。しかし、台湾からの参加者が多く、外国人参加者の７割を占めている。

台湾からの参加者が SNS で明石海峡大橋の塔頂からの眺めの写真など見学ツアーを紹介していたことがあったことから、口コミ効果で広がった可能性もあると推測されている。

※SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）：ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど、インターネットや携帯回線を通じて　不特定多数の人が交流を図るサービスの総称

非日常的な主塔からの絶景

4 先進事例の取り組み

３章では事例の中で参考になるポイントを箇所として紹介した。４章では先進的な事例について、取り組みの全体像がわかるように事例集として紹介する。

■ 八ッ場ダム（群馬県）→P.29

工事中のダムで個人や団体、マニアや観光客などに応じた多彩なツアーを開催

■ 鬼怒川ダム群（栃木県）→P.31

水陸両用バスやキャットウォーク体験などのダムの堤体案内を民間事業者のみで実施

■ 首都圏外郭放水路（埼玉県）→P.33

社会実験として民間運営システムを導入し、受入枠の増大やサービスの向上を実現

■ 宮ヶ瀬ダム（神奈川県）→P.35

定期的な観光放流の年間計画を定め、旅行計画を立てやすいように事前に周知

■ 国道289号八十里越（新潟県・福島県）→P.37

工事中の道路の見学会と地域の歴史や文化、自然などと組み合わせて日帰り、宿泊ツアーを実施

■ 天ヶ瀬ダム（京都府）→P.39

地域連携 DMO による、市街地から歩いて行けるダムを観光資源として活用

■ 明石海峡大橋（兵庫県）→P.41

吊り橋の主塔に登るアー、説明の工夫や高所における徹底した安全管理

■ 中国技術事務所＋休山トンネル（広島県）→P.43

技術事務所の防災施設見学と国道事務所の工事現場見学が連携してツアーの魅力をＵＰ

■ 小谷村砂防ダム群（長野県）→P.45

地すべり地区の砂防堰堤を観光資源として活かしたドボクアート砂防堰堤めぐりバスツアーを実施

■ 第二海堡（千葉県）→P.46

第二海堡上陸ツアーを本格実施するためにトライアルツアーを実施

群馬県長野原町

ハッ場ダム

ダム建設中の多彩な見学ツアー

「やんば見放台」からダム工事の全景を望む

見学会時の展望台

（上）やんば見放台（展望台）へのアプローチ路は舗装され手すりもあり高齢者の方でも行きやすい
（下）ツアー用の展望台は仮設で整備されている

取り組みの概要

首都圏で唯一の大規模ダム建設工事現場において、「今だけ」「ここだけ」「あなただけ」をコンセプトに、「やんばツアーズ」と称する工事現場見学会をほぼ年中無休で開催。
個人・団体向けの多種多様なツアーを用意し、個人・団体がダム見学に立ち寄ることで地域内の飲食物販や休憩、観光等の機会を創出している。
その結果、2017 年度の見学者数は大幅に増加し、約 2.9 万人が来訪している。

【経緯】

2013　道の駅「八ッ場ふるさと館」開業
2015　八ッ場ダム本体建設工事起工式（2 月）、地元住民対象の現場見学会開始（4 月）、一般向け見学会開始（8 月）、「なるほど！やんば資料館」（8 月）と展望台「やんば見放台」の開設（9 月）
2017　八ッ場ダム観光プロジェクト「やんばツアーズ」開始、「教育旅行プログラム」開始、八ッ場ダムファン倶楽部発足（4 月）、長野原町と跡見学園女子大学とが共同実施する「長野原町に新しい芽を出そうプロジェクト」（8 月）
2018　八ッ場ダム観光プロジェクト「やんばツアーズ 2018」を実施（下半期は、地元主催有料ツアー「プレミアム見学プラン」を新たに設定）

基本情報

【施設管理者】
国土交通省　関東地方整備局　八ッ場ダム工事事務所
〒377-1395 群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋11番地
電話　0279-82-2311（代表）

【事業主体】
◆「やんばツアーズ」
国土交通省　関東地方整備局　八ッ場ダム工事事務所
［内、地元主催ツアー］
・地元主催有料ツアー：地域在住ガイドが案内
・ジオパーク見学会：長野原町
◆道の駅スタッフが案内する「八ッ場ダムツアー」
道の駅 八ッ場ふるさと館　（有料）

【施設の特徴】
◆八ッ場ダム（完成時）
堤高 116.0m　堤長 290.8m　重力式コンクリートダム

POINT 1 多彩な見学テーマとプレミアム感の演出

〔やんばツアーズの概要〕

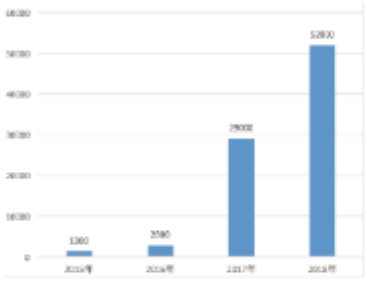
ツアー造成は、「個人向け」、「団体向け」の 2 つの柱を立て季節感を色濃く打ち出し、リピーターの獲得も可能なツアー内容としている。そのため、参加者も自分達の興味や持ち時間に合わせて見学ツアーを選べるものとなっている。ツアーの中には予約がいるものもあるが、基本的に予約不要で気軽に立ち寄れる。

ツアー参加者は、一般に開放された「やんば見放台」とは別の箇所から見学でき、ツアー参加によるプレミアム感を演出している。

〔やんばツアーズのメニュー〕

多彩な見学ツアーは下表に示した 10 種類があり、個人用・団体用、無料･有料、予約有無など様々な条件から選べる。

参加しやすい見学ツアーを構成した結果、やんばツアーズを始めた 2017 年は前年の 10 倍の見学者が訪れるようになっている。



見学者数の推移（個人＋団体見学会）

ダム完成後も観光の拠点となる道の駅・やんばふるさと館

POINT 2 「見学会」から進化した「やんばツアーズ」

ツアー実施にあたり、ツアーブランド「やんばツアーズ」を立ち上げ、さらに 2018 年より八ッ場ダムのロゴマークを作成・使用している。

ツアーでは、地元在住の「やんばコンシェルジュ」が専用コスチュームを着て、ダムや地域の案内を行っている。

また、見学ツアーに参加する人は、カラーヘルメットを選択・着用できるなど見学ツアーを楽しませる工夫が見られる。

ツアー参加者には、工事進捗に併せて図柄が変わるダム（建設）カードやダム基盤部の石（川原湯温泉神社でお祓い済）等のお土産が提供される。

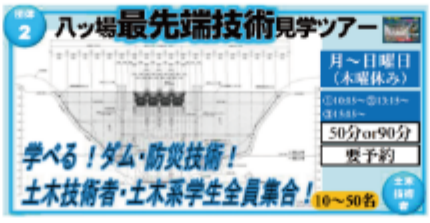
見学会日程は、半年以上前に公開することにより旅行会社のツアーへの組み込みも可能となっている。

POINT 3 ダム完成後をにらんだ地元主催ツアー

ダム完成後には、インフラツーリズムの主体は国土交通省から地元主導となる。そこで、地域が主導する見学会が継続化できるよう、地元住民らが主催する２種類の有料ツアーが 2018 年下期より開始された。

季節限定見学会では新緑・ホタル・紅葉等をテーマにダム完成前の今だけの景色を楽しむツアーを実施。地元在住ガイド見学会では、ナイトツアーとして建設現場と長野原町の未来を語るツアーが開催されている。

ツアー名	テーマ	定員	定員	時間	予約	料金
八ッ場ダム季節限定見学会	【地元主催有料】自然と歴史そしてダム見学	－	20	－	要予約	有料
地元在住ガイドご案内見学会	【地元主催有料】地元在住ガイドが語る八ッ場ダム	－	40	60分	要予約	有料
八ッ場ダムぶらっと見学会	お気軽にぶら～っと。	個人	40	40分	不要	無料
八ッ場ダム夜の現地見学会	浮かび上がる光の工事現場！	個人	40	50分	不要	無料
八ッ場ダムファン倶楽部見学会	普通の見学会では物足りない方！	個人	－	－	－	無料
八ッ場ダムジオパーク見学会	【長野原町企画】	個人	－	－	－	無料
やんばコンシェルジュ御案内ツアー	ダムの巨壁が目前に迫る	団体	50	50分又は90分	要予約	無料
八ッ場最先端技術見学ツアー	土木技術者・土木系学生集合！	団体	50		要予約	無料
ヤンバインバウンドツアー	世界に誇る！日本のダム技術	団体	50		要予約	無料
やんば丸ごと体験ツアー	学んで育てる水防災意識社会！	団体	100		要予約	無料



多様な層に向けた見学会を開催している。

栃木県・日光市

鬼怒川上流ダム群（湯西川ダム・川治ダム 五十里ダム）

水陸両用バスとキャットウォークを目玉とする民間ツアー

水陸両用バスによる湯西川湖（ダム湖）へのスプラッシュ

民間ツアーの目玉としている川治ダムのキャットウォークの見学

五十里ダムの堤体内部にある国産第一号の高圧スライドゲート

取り組みの概要

鬼怒川上流ダム群は、日光や鬼怒川温泉などの観光地に囲まれており、以前からダムを活用したインフラツーリズムが展開されてきた。

特に、ダム湖に水陸両用バスを浮かべ、ダム湖遊覧とダム堤体見学の組み合わせは、日本では初めての取り組みであった。

その後、地元有志らにより鬼怒川上流にある他のダムを活用した観光事業が検討され、現在、社会実験として川治ダムを中心に鬼怒川上流にあるダムを見学するツアーを民間事業者で実施する取り組みが進められている。

[経 緯]
湯西川ダムにおける水陸両用バス運行

2006　社会実験として水陸両用バスを川治ダム湖で運行
2008　水陸両用バス導入協議会を設立し民間主体の運行を開始
2013　湯西川ダムが完成し湯西川湖に場所を移して運行
　　現在に至る

[経 緯]
民間事業者による３ダム見学ツアー

H29 年　JR東日本の旅行促進キャンペーンあわせ、川治温泉活性化の１つとして川治ダム見学を社会実験として開始。
　　現在に至る

基本情報

【施設管理者】
国土交通省 関東地方整備局
鬼怒川ダム総合管理事務所
〒321-0905
栃木県宇都宮市平出工業団地 14-3
TEL　028(661)1341

【実施主体】
◆湯西川ダムにおける水陸両用バス運行
　NPO 法人日本水陸両用車協会
◆川治温泉３ダム見学ツアー
　有限会社ネイチャープラネット

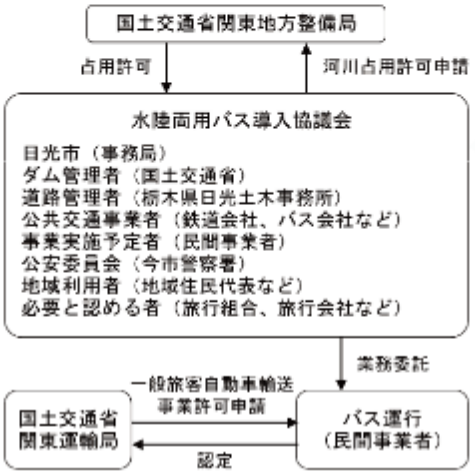
【施設の特徴】
◆湯西川ダム　2013 年完成
　堤高 119m　堤長 320m
　重力式コンクリートダム
◆川治ダム　1981 年完成
　堤高 140m　堤長 320m
　アーチ式コンクリートダム
◆五十里ダム 1956 年完成
　堤高 112m　堤長 267m
　重力式コンクリートダム

POINT 1 湯西川ダム・水陸両用バス導入協議会の設立

湯西川ダムは、ダムを活用して地域活性化に寄与するため、ダムの工事段階から水陸両用バスの導入が検討されていた。

そのため、2008 年に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、ダムを活用した観光活性化を図ること、地域公共交通の活性化及び再生を目的に「水陸両用バス導入協議会」（会長：日光市長）を設立し、地域の合意を得て、民間事業者となる水陸両用バス運行組織がダム湖およびダム堤体の案内を実施する仕組みを構築。

この水陸両用バス導入協議会の事務局である日光市が、河川法を踏まえ河川管理施設となるダム施設やダム湖への進入路を占用し、水陸両用バスの運行を民間事業者に業務委託することで民間事業者がダム施設やダム湖を利用して事業を展開している。なお、業務委託料などはなく、独立採算性として民間事業者が自らの運行収入で利益を確保している。



水陸両用バス導入のための事業スキーム

湯西川ダムの天端からエレベーターに乗り、ダム内部を案内。エレベーターの操作や案内は、民間事業者の社員が実施。

湯西川ダムにおけるダム湖遊覧とダム見学の概要

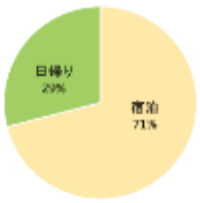
コース　道の駅⇒ダム湖遊覧⇒ダム堤体見学（ダム内部を含む）⇒道の駅（代表ルート）
所要時間　70～80 分　一日５便（５便目は夏季のみ）
開催期間　４月～12 月（土日祝日も含む）
料金　大人 3,000 円　子供 2,000 円（2016 年時点）

POINT 2 水陸両用バスの利用者の７割が地元に宿泊

湯西川ダムにおける水陸両用バスは、年間約 2 万人の利用者がある。アンケートによれば、利用者の約 7 割が宿泊を伴う旅行形態で、その多くが地元の温泉に泊まっている。

このように、水陸両用バスの導入は、新たな観光資源の創出だけでなく、地元温泉街への宿泊者確保にもつながっている。なお、地元宿泊施設においてもロビーに水陸両用バスのポスターを掲示するなどの情報を提供している。

湯西川ダムにおける水陸両用バスの利用者数の推移



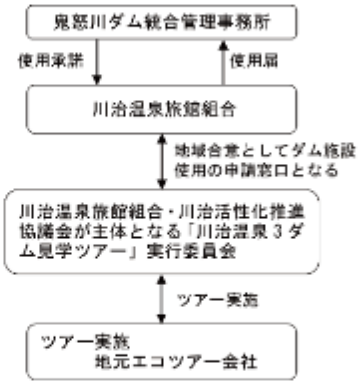
2017 年度の旅行形態区分（利用者アンケート結果）

POINT 3 エコツアー会社によるダム見学の実施

川治ダムでは、ダム管理者が平日に限りダム見学を受け入れていたが、2017 年度から３年間、栃木県を売り出す JR 東日本のキャンペーンをきっかけに、鬼怒川上流にあるダム群（川治ダム / 国管理、五十里ダム / 国管理、小網ダム / 県管理）を観光資源として売り出すことを地元有志らが企画し、日光市観光協会を通じて取り上げてもらうこととなった。

そこで、地元有志らがダム施設見学の方法をダム管理者と協議し、土日における開放も含め社会実験として民間事業者（地元エコツアー会社）の社員のみでダム見学を実施していくこととした。

なお、民間事業者のみでダム堤体内やキャットウォークを見学するため、事前にダム管理者が実施する研修（ダム見学の案内や安全管理など）を民間事業者の案内要員に受けていただき、トラブルが起きないように指導している。



川治温泉３ダム見学ツアーの事業スキーム（2017 時点）

埼玉県・春日部市

首都圏外郭放水路

民間運営見学システムによる受け入れ体制の強化

地下神殿コンシェルジュによる説明。庄和排水機場に併設された広報施設「龍Ｑ館」に展示してある大型のパネルを使って首都圏外郭放水路の仕組みについて説明

龍Ｑ館での説明後、調圧水槽（地下神殿）に移動。入口では安全管理に関する注意事項やカウンターを使って人数の入念なチェックを行う。

「地下神殿」とも称される調圧水槽での見学会の風景

取り組みの概要

「国の防災施設を官民連携で世界一の観光資源に育てる」ことを目指して、2018 年 8 月 1 日より「民間運営見学システム」の社会実験を開始した。民間旅行会社により、土日祝日を含めた毎日 7 回のツアーを開催し、見学枠を５倍に拡大。専門のガイドを育成・配置し、ツアー商品受け入れや春日部市内の施設や農園への誘導等の取り組みも行っている。

[経緯]

2003　・地底探検ミュージアム「龍Q館」開館
2014　・見学会開始
2016　・土曜見学会を月1 回実施。1日３回の見学会の内 1回について定員を 25 名から50名に拡大（6月～）
2017　・土曜見学会を月２回に拡大実施（4月～）
・首都圏外郭放水路利活用懇談会開催
2018　・首都圏外郭放水路利活用協議会設立
・首都圏外郭放水路（庄和排水機場／龍Q館）を都市・地域再生等利用区域に指定
・首都圏外郭放水路の利活用について連携する事業者を募集
・首都圏外郭放水路利活用協議会と東武トップツアーズ株式会社と連携協定を締結（5/1）
・「民間運営見学システム」による社会実験
（8/1 ～12/26、公開回数の拡大：1日7回）

基本情報

【施設管理者】
国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所
〒278-0005 千葉県野田市宮崎 134
TEL　04-7125-7311（代表）

【事業主体】
首都圏外郭放水路利用活用協議会（協議会構成メンバーは国（江戸川河川事務所）、春日部市、庄和商工会、春日部商工会議所、春日部観光協会）

【企画運営】
東武トップツアーズ株式会社

【施設の特徴】
◆首都圏外郭放水路
・2006 年全区間完成・全面供用開始
・国道 16 号の地下約 50mに建設された延長 6.3km
の世界最大級の地下放水路。
・「地底探検ミュージアム龍Ｑ館」が排水機場に併設。

POINT 1 民間運営見学システムの導入による体制強化

〔民間運営見学システムの導入〕

首都圏外郭放水路の見学会は、施設管理者である国が開催していたが、平日のみの開催で、予約がなかなか取れない状況が続いていた。以前から見学希望者より土日祝日の開放や団体見学（バスツアー等）の受け入れの要望が寄せられており、政府が掲げる公共施設の大胆な公開・開放の施策を実現するためにも、土日祝日の開放や更なる見学会拡大の施策を検討する必要があった。そこで、民間事業者が河川区域内で営業活動ができる制度（河川法に基づく河川敷地占用許可準則）を活用し、見学会の運営を民間事業者が対応することとした。

〔運営組織づくりと有料化〕

2018 年 2 月に江戸川河川事務所、春日部市、春日部商工会議所、庄和商工会、春日部市観光協会で「首都圏外郭放水路利活用協議会」を設立。

この協議会で社会実験による民間開放に向けた枠組みについて協議し、公募を経て東武トップツアーズ（株）と連携協定を結び、民間事業者が見学会の企画運営を担うこととなった。民間事業者が運営することになり、見学会を有料化し、ガイド要員の確保等にあてた。

〔体制強化による受け入れ枠の拡大〕

民間事業者の運営により、今まで実施できなかった土日･祝日にも見学会を開催し、受け入れ枠を大幅に拡大した。その結果、社会実験を行った 8~10 月の見学者数を比較すると前年度の約 4 倍に増加。受け入れ枠が広がったことから旅行会社のバスツアーも受け入れ、地元の道の駅にも立ち寄るようになるなどの地域連携効果も発揮している。

対前年度見学者数との比較　数字は見学者数（開催回数）

	8 月	9 月	10 月	3ヶ月合計
2017	2,232 人（79 回）	1,659 人（52 回）	1,844 人（49 回）	5,735 人（180 回）
2018	9,784 人（192 回）	5,977 人（190 回）	6,401 人（201 回）	22,162 人（583 回）
対前年比	4.3 倍（2.4 倍）	3.6 倍（3.7 倍）	3.5 倍（4.1 倍）	3.86 倍（3.2 倍）

POINT 2 地下神殿コンシェルジュの育成・配置

地下神殿コンシェルジュの認定を受けたのは正確にはまだ1名。解説内容は江戸川河川事務所が作成した広報資料をベースに、わかりやすく改良しながらレベルアップを図っている。

《社会実験＜見学会＞の取組概要》

〔開催月日〕
2018 年 8 月 1 日～ 12 月 26 日、毎日開催
1 日 7 回　①10:00 ②11:00 ③12:00 ④13:00 ⑤14:00 ⑥15:00 ⑦16:00
〔所用時間〕50 分　〔募集人員〕50 名 / 回
〔参加料金〕一人650 円（8月は特別価格500 円）
〔申し込み〕web または電話
（参加希望Hの1ケ月前の同H 11:00 から）

POINT 3 非公開エリアの開放によるプレミアム感

〔洪水の時だけの特別見学プランの用意〕

洪水時には見学会を中止していたが、見学者の安全を確保した上で、洪水時にも防災機能を発揮している姿を上部のキャットウォークから見せる見学会を開催し、「その時だけ見られる」という見せ方に転換した。

洪水時に水を貯めている状況の見学

POINT 4 インバウンドへ対応したアプリの開発

記者発表やホームページで見学会を PR するにあたって「面白そう！」と思ってもらえるようなキャッチフレーズを考案した。

挑戦１　日本初！　大胆なインフラ観光への挑戦
挑戦２　見学受け入れ人数を一挙に約５倍に拡大
挑戦３　「巨大縦穴」を新たに見学コースに追加
※従来非公開
挑戦４　３か国語に対応した多言語アプリを導入
挑戦５　新たにア AR（※）コンテンツを導入！
挑戦６　洪水の時だけ！施設稼働中に限り特別見学プランをご用意
挑戦７　「首都圏外郭放水路」を観光資源に！ブランド化！

※AR：仮想現実

見学会を PR するための７つのキャッチフレーズ

神奈川県愛川町

宮ヶ瀬ダム

定期的な”観光放流”による誘客

定期的な放流を見学に訪れる多くの人々。ダム下流側の園地は、ロードトレインで移動することもでき、子供から高齢者まで多くの方々が手軽に楽しめる

ダム天端からは放流がよく見えないため、来訪者はダムの下流側に移動して見学

愛川町のイベントとして開催されたナイト放流。ダム下を会場として屋台が多数出店

2018年は11/24～12/25まで「宮ヶ瀬クリスマスみんなのつどい」と称して61万球のイルミネーションが飾られた。毎年多数の来訪者がある

（写真提供）宮ヶ瀬湖写真コンテスト特別賞「冬の宮ヶ瀬湖を彩る」中根英治

取り組みの概要

宮ヶ瀬ダムでは、年間約70日の定期的な観光放流を実施し10万人の見学者を招き入れている。

また、ダムの完成前から神奈川県・地元自治体・小田急電鉄等の民間企業・漁協などにより、公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団が設立（1992年）され、関係機関の調整を図りながら周辺園地の管理運営を実施している。

財団は、2017年に観光庁から観光地域づくりの舵取り役である「日本版DMO法人」として登録され、宮ヶ瀬ダムを中心とした周辺地域を観光資源として積極的に売り出して行く検討を進めている。

【経緯】

1992　財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団　設立
2002　観光放流開始
2011　公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団として登記
2017　財団が「日本版DMO法人」として登録

基本情報

【施設管理者】
国土交通省 関東地方整備局
相模川水系広域ダム管理事務所
〒252-0156
神奈川県相模原市緑区青山字南2145-50
TEL　046-281-6911（代表）

【見学場所の管理運営】
公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団

【施設の特徴】
◆宮ヶ瀬ダム　2001年完成
堤高 156m　堤長 375m
重力式コンクリートダム

POINT 1 定期的に行われる観光放流

観光放流を４～ 11 月、毎週水曜日、第 2 日曜日、第 2･4 金曜日の午前・午後に 1 回、定期的に行っている（6 分間 / 回）。この観光放流の実施日は、年度当初に「観光放流実施日」（年間実施日カレンダー）として、ダム事務所HP、宮ヶ瀬ダム周辺振興財団のHP、チラシ等で公表・周知されている。

そのため、下流地域の学校見学や観光放流を見学する旅行ツアー等の企画に組み込まれ、年間 10 万人を越える見学者を集客している。

観光放流は、地域振興の一環として行われており、下流には副ダム（石小屋ダム）があり、観光放流により下流の中津川に影響を与えることがなく定期的に実施することができている。

多くの学校や幼稚園などが観光放流を目当てにバスで来場

POINT 2 観光放流を見る視点場の確保と移動の楽しみ

観光放流の視点場としてダム下の広場や下流に架かる橋梁が開放されており、安全に放流が見学できる。

ダム堤体の上下間の移動は、インクライン、エレベーターがあり様々な移動手段が楽しめる。

さらに、2018 年度はダム堤体横のフーチング階段（管理用階段）を観光放流と併せて開放し、歩いて移動すること自体をイベントにしている。

また、観光放流を見るダム下流の広場には、隣接する県立公園の駐車場からロードトレインが運行されており、誰でも気軽に観光放流を見に来ることができる。

ダムの放流等見学者の推移　ここ数年で見学者が増加している

ダム見学の概要

個人・団体を問わず宮ヶ瀬ダムは、自由に見学することができる。

ただし、大型バス等で来る場合には、事前に駐車場の予約が必要。ダムに隣接する水とエネルギー館での説明が必要な場合も予約が必要。

通常は、ダム内部の見学をすることはできないが、全国イベントの「森と湖に親しむ旬間」（7 月下旬 ）にはダム内部見学会を開催している。

POINT 3 管理運営組織の確立による地域との連携

ダム湖には２つの園地と１箇所の都市公園がある。また、国体の開催時に利用したカヌー競技場等があり、これらを公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団が一括して管理運営している。

各園地を結ぶシャトルバスや遊覧船の運行を財団が行い、それぞれの園地を結び、遊びの幅を拡げて滞在時間の増加を狙っている。

また、財団が各園地でのイベントを企画・運営しており、統一感のある催し物が行われている。

《ダム周辺を楽しむ様々な移動手段》

遊覧船

シャトルバス

エレベーター

フーチング階段

ロードトレイン

インクライン

新潟県三条市・福島県只見町

国道289号 八十里越

工事現場見学と
周辺資源の組み合わせ

７号橋梁工事現場見学

峠のトンネルや橋梁の工事現場を見ることができる

現場での説明風景　解説パネルを利用し丁寧に説明

取り組みの概要

一度途絶えた会津と越後の道が時を超えて再び結ばれる「国道２８９号八十里越」の工事見学を通じ、事業の効果・必要性を感じてもらうとともに秘境八十里越の最大の魅力である「あふれる自然」や「河井継之助にまつわる歴史ロマン」を実際に体感してもらう、「秘境八十里越体感バス」を三条市がツアー企画を主導し民間がツアーを実施している。

【経緯】

1989　工事着手
2012　八十里越道路暫定的活用検討懇談会設立
2013　八十里越・体感バス開始
「三条市が主催する八十里越工事見学会の実施に関する覚書」締結（長岡国道事務所・三条市）

基本情報

【事業実施者（権限代行区間）】
国土交通省北陸地方整備局　長岡国道事務所
〒940-8512 新潟県長岡市中沢 4-430-1
TEL　0258-36-4551
新潟県三条地域振興局
福島県南会津建設事務所
※新潟県施工、福島県施工区間は工事終了。

【秘境八十里越体験バス事業実施主体】
三条市経済部営業戦略室

【実施主体】
三条市、只見町、只見町観光まちづくり協会、新潟県三条地域振興局、福島県南会津建設事務所、北陸地方整備局長岡国道事務所

POINT 1 インフラ見学と地域資源を連携させたツアーづくり

新潟県三条市が「感じよう、あふれる自然・歴史ロマン・未来へつなぐ土木技術」をテーマに秘境八十里越体感バス事業を企画。

冬期間の工事期間制約や急峻な地形のため難工事であるが、新潟県と福島県を結ぶ安全性や信頼性の高い交通網の必要性や目的を周辺の方々から、知っていただき体感していただくことで、早期開通に向けての気運を高めることができれば･･･との思いで体感バス事業を開始した。

工事現場見学だけでなく、体感バスに付加価値を付けて旅行商品として売り出すために、地域の様々な観光資源と結び付けている。

体感バス事業は、三条市が企画コンペで旅行会社を選び委託している。工事現場以外に立ち寄る観光資源はアンケート等を参考にして、三条市が推薦し、それらを結ぶルートの楽しみ方を旅行会社とともに検討している。

三条市が企画を主導しているが、只見町を含めた他地域と連携し地域全体の振興につなげている。

道路工事の概要

- 国道 289 号は、新潟県新潟市を起点として福島県いわき市に至る総延長約 302km の道路
- 新潟県三条市から福島県只見町に至る県境部分が「八十里越」と称される険しい山道であり、県境部分19.1kmは一般車両が通行出来ない「通行不能区間」である。
- 国土交通省・福島県・新潟県では通行不能解消のため、道路工事を３者で進めている。

工事中の橋梁の見学

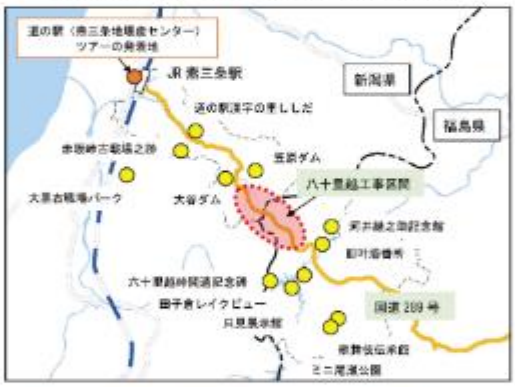
POINT 2 三条市・只見町を事務局とする活用検討懇談会を設立

2010年度に県境トンネルが開通し限定的に両県の往来が可能となったことを契機に 2012 年に行政及び観光関係組織らによる「八十里越道路暫定的活用検討懇談会」を設立。この懇談会で翌年に実施する通り抜け事業について協議をしている。

山間部の工事見学は、道幅が狭く見学バスのすれ違いが難しいこと、また、工事を実施していない日曜日に限定して体感バス運行していることから、これらの制約を調整し、安全で余裕ある通り抜け事業を実施するため協議を行っている。

これらの調整の結果、年間16 回程度の日曜日に通り抜け事業が開催されている。また、参加率が悪い便は、行政担当と旅行会社で原因を協議し、翌年の体感バス事業に反映させている。

■八十里越ツアーにおける周辺資源との連携



近隣のダムの見学

秘境八十里越体感バスには、複数のインフラを見る便もある（笠堀ダム）

歴史的資源である旧叶津番所に立ち寄る便もある

《秘境八十里越体感バスの旅行商品》

体感バス便名	「八十里越工事見学」以外の立ち寄り場所	予約	定員	所要時間
あふれる自然～太古の贈り物“ブナ林”と八十里越古道トレッキング	ブナ林や八十里越古道トレッキング	先着	15名	1泊2日
歴史ロマン～戊辰戦争の史跡をめぐる旅	古戦場、戊辰戦争史跡めぐり	抽選	15名	1泊2日
環境に共存するダム技術をめぐる旅	笠堀ダム、大谷ダム、発電所、田子倉ダム、第二沼沢発電所	抽選	15名	1泊2日
神に捧げる檜枝岐奉納歌舞伎と自然の宝庫を訪ねて	歌舞伎伝承館、ミニ尾瀬公園	抽選	45名	1泊2日
戊辰戦争終結 150 年記念企画・河井継之助の足跡を辿る八十里越踏破の旅	八十里越踏破、旧叶津番所、河井継之助記念館	抽選	15名	1泊2日
八十里越・六十里越街道ぐるり旅	JPOWER 只見展示館、田子倉ダムレイクビュー 六十里越峠開通記念碑	抽選	162名	1日
河井継之助の軌跡・八丁沖ウォーク	赤坂峠古戦場之跡、河井継之助記念館、八丁沖ウォーク	抽選	21名	1日
未来へつなぐ歴史の道・国道 289号工事見学ツアー	（八十里越工事見学のみのツアー）	先着	840名	3時間

京都府宇治市

天ヶ瀬ダム

市街地から歩いて行けるダムの地域連携DMO（※1）による活用

クレストゲートからの点検放流

通常は立ち入ることのできないキャットウォーク（※2）を歩きダム直下へ

キャットウォークの歩行体験

取り組みの概要

2017 年 3 月に山城地域 12 市町村の観光振興を図る「お茶の京都 DMO」が設立。

お茶の京都 DMO では地域の新しい観光資源として天ヶ瀬ダムに着目。最初にニーズ調査として天ヶ瀬ダムツアーを企画し、十分ニーズと満足度があることを把握した。

次に地域経済に寄与する旅行商品として天ヶ瀬ダムと高山ダムを結ぶツアーを開発し、定着させようと取り組んでいる。

〔経緯〕

2016　天ヶ瀬ダムプロジェクションマッピング実施
2017　お茶の京都 DMO 設立
2018　天ヶ瀬ダムを見に行こう（お茶の京都 DMO 主催）
　　天ヶ瀬ダム・高山ダム特別見学（京都京阪バス主催）

基本情報

【施設管理者】
国土交通省近畿地方整備局
淀川ダム統合管理事務所
〒573-0168
大阪府枚方市山田池北町 10-1
TEL　072-856-3131

【実施主体】
国土交通省近畿地方整備局
淀川ダム統合管理事務所・天ヶ瀬ダム管理支所
高山ダム管理所（独立行政法人水資源機構）
お茶の京都 DMO、京都京阪バス

【施設の特徴】
◆天ヶ瀬ダム　1964 年完成
・高さ 73m、堤頂長 254mのドーム型アーチ式コンクリートダム
・京阪宇治駅から 3.3km（徒歩約 40 分）の距離にある市街地に至近のダム

（※1）DMO
（Destination Management Organization）
：観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと

（※2）キャットウォーク
：ダム堤体など高所にある管理用通路

POINT 1 DMO によるインフラツーリズムへのニーズ調査

旅行会社、宇治市、京都府からの出向職員で構成される「お茶の京都 DMO」は、新たな地域の観光資源の発掘と商品化をミッションとしており、その対象としてダムに着目した。

2018 年５月に、まずニーズ調査の位置づけで 500 円のツアーを社会実験として 4 回企画した。マスコミ報道もあり、40人×4回のツアーの定員は２日間で埋まり、2.4 倍の申し込みがあった。アンケートを実施して、ニーズ、満足度も十分であることを把握した。

ニーズ調査として取り組んだ天ケ瀬ダムツアー

キャットウォークから点検放流を見学

POINT 3 ダムを観光資源と捉える契機となる社会実験の実施

天ケ瀬ダムを観光資源として位置づける大きなきっかけとなったのは、2015 年に国土交通省近畿地方整備局が若手職員を対象にプロジェクトを募集した「近畿の夢 100 プロジェクト」である。その中で職員から「天ケ瀬ダムでレーザー光線ショーをやりたい」というアイデアが出された。

これを「天ケ瀬ダムプロジェクションマッピング～天ケ瀬ダム観光資源化社会実験～」と称して、ダム堤体をスクリーンにして、プロジェクションマッピングを実施することになった。

淀川ダム統合管理事務所が主催し、宇治市、宇治商工会議所、宇治市観光協会が後援となり、プロジェクションマッピングの実績のある京都精華大学の協力を得て実現した。

社会実験にモニターとして 1 日 700 名を募集し、2016 年 8 月 6 日、7 日の 2 日に渡って実施した。モニターは定員を超える応募があり、2 日間で約 1,200 人が観覧した。

POINT 2 ダムをテーマとした旅行商品開発

次のステップとして、地域経済に寄与し得る旅行商品の開発に取り組み、交通費を含め大人 6,800 円 / 人のツアーを企画した。

企画のねらいは宇治市まで来た観光客を京都府南部まで連れて行くことで、広域連携の観点で天ケ瀬ダムと高山ダムを組み合わせて行程を作成した。

天ケ瀬ダムの見学では淀川ダム統合管理事務所と宇治市観光協会・宇治観光ボランティアガイドクラブとの間で連携・役割分担を行い実施した。

地域での経済効果を期待して、南山城村の道の駅で買い物をしていただき、昼食は笠置町で高山ダムのダムカレーを食べていただいた。ダムカレーはこのツアーにふさわしい昼食として「笠置いこいの館」に依頼して考案した。商品化にあたっては高山ダム管理所長がダムの特徴などについてアドバイスを行った。ツアー用に特別に提供する予定であったが、好評だったため定番化して提供するようになった。

ツアーは大変好評で、今後も継続的に実施することとしている。

高山ダムの見学

天ケ瀬ダムと高山ダムの位置関係

天ケ瀬ダムが観光資源として活用されたプロジェクションマピングイベント

兵庫県・神戸市

明石海峡大橋

徹底した安全管理が支える ブリッジワールド

主塔の上からの眺め（神戸市側をのぞむ）

主塔まで約１Km、海の上の管理用通路を歩いて行く。

取り組みの概要

道路事業に対する理解を深めるとともに、橋梁の建設・管理の技術への関心を高め、ひいては利用促進や地域振興につながることをねらいとして 2005 年から「明石海峡大橋ブリッジワールド」を開催している。

2018 年までの 14 年間でおよそ 12 万人が参加。海上 300m からのパノラマは絶景で、ガイド内容も充実しており、予約がなかなかとれない状態となっている。

〔経緯〕

2004　主塔登頂ツアーを４ケ月間試行。
2005　「明石海峡大橋ブリッジワールド」として主塔登頂ツアーを本格実施。

基本情報

【施設管理者】

本州四国連絡高速道路株式会社
〒651-0088
神戸市中央区小野柄通 4-1-22
TEL　078-291-1000（代表）

本州四国連絡高速道路株式会社
神戸管理センター
〒655-0852
神戸市垂水区名谷町 549 番地
TEL　078-709-0084（代表）

【実施主体】

本州四国連絡高速道路株式会社

【施設の特徴】

◆明石海峡大橋　1998 年完成
・神戸市と淡路島の間の明石海峡に架かる吊り橋
・橋長 3,991m
・主塔高さ 297m
（吊り橋における世界最高）
・中央支間長 1,991m
（吊橋における世界最長）

POINT 1 徹底した安全管理が支える見学会

〔参加条件による安全確保〕

参加には条件があり、小学生以下の子どもは参加不可、中学生は保護者同伴としている。また、階段の上り下りが、2Kmの歩行ができる体力を必要としている。

〔持ち物制限と落下防止対策による安全確保〕

両手を使える状態にするためにリュック以外に荷物は持たないように案内しており、リュックが無い場合は貸与品が用意されている。

さらに、ポケットがたくさんついたベストを貸与し、小物や貴重品をしまうように案内している。携帯電話やカメラは、用意しているネックストラップに固定するように促している。

万が一主塔見学中に下の道路に荷物などが落ちれば通過している車両にあたり、事故が発生するため、徹底した安全管理を実施している。

説明会場には、無線イヤホン、ヘルメット、誓約書、ペンが用意され、机上に置かれている。
ストラップやリュックは希望者に貸与。見学に不要な荷物は施錠した説明会場に保管できる。

〔ガイドスタッフと安全担当スタッフの配置〕

ガイド役は明石海峡大橋の建設に関わった様々な企業の OB が務めており、参加者を 10 名ほどの班に分けて、それぞれに 1 名のガイドスタッフがつく他に安全担当スタッフが 2 名ツアーに参加し安全確保に目を光らせている。

解説は、無線イヤホンを通して聞くスタイルでガイド役周辺に人が集中すること無く余裕を持って聞くことができる。

ツアー開始時にはガイドスタッフの紹介があり、参加者はどのガイドに誘導されるかが分かり、迷うことなくツアーを楽しめる

ツアーの概要

〔開催月日〕4月～11月の木曜～日曜・祝日※
1日2回（午前・午後）
〔所用時間〕2時間 40 分
〔募集人員〕48 名 / 回（2018 年までは 42 人 / 回）
〔参加料金〕一人 3,000 円、中学生 1,500 円

※団体は毎月第４水曜日に受入れ。

POINT 2 事業説明は事前に実施し、その後は、余裕をもって安全に楽しむ

「明石海峡大橋ブリッジワールド」は 2時間 40 分の時間をかけたツアーを設定しており、はじめに説明会場でビデオを15分間見て、次に橋の科学館で模型等を見ながら20分間の説明を聞き、道路事業の意義や橋梁建設技術の素晴らしさの理解を深めてから主塔に登る。

主塔では、難しい説明をせずに自由に写真を撮影したり、風景を楽しんだりできるようにしている。

橋の科学館で模型を見ながら説明

POINT 3 安全性を高めるためのインバウンド対応

ツアー参加者による主塔からの眺め等の写真がネット上で紹介され、それを見たアジアを中心とした外国人参加者が増えており、参加者の 2 割近くが海外からの参加者となっている。

これを受けて、海外からの参加があるときは英語で対応できる人員が配置され、最初の準備の手伝いや見学コースの案内をしている。英語、中国語、韓国語での音声案内機器も用意している。

このため、海外の方も安全にツアーを楽しむことができる。

海外からの参加者による記念撮影

広島県・広島市・呉市

中国技術事務所＋国道185号休山（やすみやま）トンネル

複数の主体が提供する体験を組み合わせたインフラツアー

降雨体験（100mm/h）

工事中の休山トンネルの見学

取り組みの概要

中国技術事務所が自分の施設でできる防災体験・防災施設見学と当時施工中であった休山トンネル改良工事の見学を組み合わせてインフラツアーとして企画し、旅行会社を通して一般公募を行ない 2017 年 11 月 27 日に 22 名の参加で実施した。

〔経緯〕

2015　休山トンネル掘削開始。
2017　中国技術事務所の提案でインフラツアーを実施
2019　休山トンネル開通

バックホウの遠隔操作体験

基本情報

【施設管理者】

国土交通省 中国地方整備局 中国技術事務所
〒736-0082
広島県広島市安芸区船越南 2-8-1
TEL：082-822-2340

国土交通省 中国地方整備局 広島国道事務所
〒734-0022
広島市南区東雲２丁目 13-28
TEL：082-281-4131

【実施主体】

国土交通省局中国地方整備局中国技術事務所
国土交通省局中国地方整備局広島国道事務所
クラブツーリズム株式会社広島旅行センター

【施設の特徴】

◆中国技術事務所
防災対策車、降雨体　験機、排水ポンプ車、分解組み立てバックホウ、照　明車、対策本部車、橋梁点検車（バケット式）を所有

◆休山トンネル改良工事
２車線を４車線に拡幅するため、既存トンネルと平行してトンネルを掘削（トンネル延長 1.7km）

POINT 1 複数の主体が提供する体験を組み合わせる

中国技術事務所では、旅行会社を通して一般の参加者を募集するインフラツアーを実施することを企画した。

中国技術事務所は防災センターとして、災害時に出動する排水ポンプ車、分解組み立てバックホウ、照明車、対策本部車など、普段あまり目にすることのない災害対策車両を有している。また、降雨体験の装置などもあり、これらを活用した体験を提供することができる。

民間旅行会社に依頼して商品化を進めることとしたが、技術事務所の体験だけでは一般参加者に訴求するには充分ではないと考えて、中国整備局管内に何かインフラツアーとして体験ができる案件がないか照会をかけた。当時、施工中であった休山トンネルの改良工事が見学可能とのことで、両者を組み合わせてツアーを企画することとした。

洪水等の被害が予想される時に出動する排水ポンプ車の見学

POINT 2 旅行会社が旅行商品化し広報も担当

中国技術事務所は、インフラツーリズムに実績のあった旅行会社を介してインフラツアーを旅行商品化して、一般公募で集客をした。

この旅行会社の特徴として「他ではできない体験」の提供をあげており、以前から「大人の社会科見学」などのツアーをシリーズで提供している。

工事見学は工事が終わるまでの期間限定のコンテンツであること、また工事の進捗によって、その都度企画を変更しなければならないこと、場合によっては工事を止める必要があり、催行回数に限りがあることなどから、非効率な商品と考えられる。

しかし、旅行会社としては、「他ではできない体験」の提供が会社のイメージアップや PR につながることから積極的にインフラツーリズムに取り組もうとしている。

旅行会社が独立採算で行なうこととしており、一人 3,990 円の参加料金としている。ホームページと新聞折り込みチラシで募集。説明は、広島国道事務所、建設会社が行った。

新聞折り込みチラシに紅葉狩りやカニ食べ放題の旅行商品などと同列で掲載

POINT 3 トンネル工事見学の面白さと難しさ

見学会を実施した時の休山トンネル工事においては、掘削したばかりの段階、防水シートを張った段階、コンクリートを打設した段階など複数の施工段階を同時に見せて、土木構造物ができていく物語性を感じ取ることができる状態だった。

難しい点としては、トンネル内部に見学者を入れる場合は、工事を止めて対応しなければならないため、催行回数が限られることである。

機械による掘削りの状態

コンクリート打設前で防水シートを貼った段階

長野県・小谷村

小谷村砂防ダム群（おたりむら）

地すべり地帯を逆手にとった砂防堰堤めぐりバスツアー

取り組みの概要

小谷村は糸魚川静岡構造線上にあり急峻な地形と、脆弱な地質であるため、1995 年の豪雨災害を始め、何度も土砂災害に見舞われてきた。

その対策として形状や工法が様々な砂防堰堤が数多く整備されてきた。これらの砂防堰堤より厳選して、アートに見立てて、「小谷村ドボクアート砂防堰堤めぐりバスツアー」を着地型旅行商品としている。

ツアーは 8:30 ～ 16:00　昼食付　6500 円 / 人

現代アートのようなさまざまな形をした砂防ダム群

POINT 1　土木施設の価値がダイレクトに伝わるツアー

小谷村では土砂災害に対応するため砂防堰堤を多数建設してきた。村の中心を流れる姫川の東西で地質が違うこと、砂防の技術が進化してきたことにより、様々な形状や工法の砂防施設が建設されている。これを長野県の砂防事業を行ってきた OB がガイド解説することで、砂防ダムの意義と造形の面白さが理解できるユニークなツアーとなっている。また、普段は立入禁止の場所にガイドと共に入ることで特別なプレミアム感がある。

POINT 2　ツアーに不可欠な作業道の草刈り・4WD 車の準備

砂防施設は人が行かない山奥の場所に多いため、舗装がされていない作業道しかない所も多く、ツアーの前には未舗装路の草刈りや路上の落石、倒木の除去等をしなければならず手間がかかる。

しかし、このような作業道の中には、4WD のマイクロバスでスイッチバックをしなければ行けないような砂防ダムもあり非日常的な体験として好評である。

POINT 3　参加者は少なくとも地域の効果的な宣伝に

最少催行人員が 10 名で、催行回数も限られているため参加者数は年間 40 ～ 50 人と多くはない。しかし、砂防堰堤に着目した取り組みがユニークであり、さまざまな媒体で報道されて、村にとって大きな宣伝効果があった。

POINT 4　ウインタースポーツのオフシーズン対策

小谷村は栂池高原、白馬乗鞍温泉、白馬コルチナスキー場を擁し冬期はスキー客で賑わうものの、夏期になると観光客は減ってしまうため、村では 40 年ほど前から夏期を中心に地域の自然、体験などを利用したイベントを開催してきた。

2010 年からは観光連盟で旅行業第 2 種を取得し、企画した体験ツアーを着地型旅行商品として販売を始めた。その体験ツアーの一つとして小谷村では、資源である砂防ダム堰堤に着眼し「ドボクアート砂防堰堤めぐりバスツアー」を企画した。砂防ダムは防災を目的とした建造物ではあるが、他ではマネのできないツアーとなっている。

基本情報

〔施設管理者〕
長野県姫川砂防事務所
〔実施主体〕
一般社団法人　小谷村観光連盟
〒399-9494
長野県北安曇郡小谷村 中小谷丙 131
TEL：0261-82-2233

千葉県・富津市

第二海堡

本格実施前に トライアルツアーを実施

取り組みの概要

「観光ビジョン実現プログラム２０１８」の施策に位置づけられた「魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放」の取り組みに向けて、第二海堡上陸ツアーの早期実現を官民連携により推進することとなった。

2018 年度は第二海堡上陸ツーリズム推進協議会を設立し、旅行会社から企画提案を募集し、トライアルツアーとして実施、延べ 1,024 名が参加した。課題を踏まえ、今後、本格的なツアーを実施していく。

中央部砲塔観測台の見学

POINT 1 第二海堡上陸ツーリズム推進協議会の設立

上陸ツアーを実施するにあたり 2017 年 3 月に関東地方整備局内で「第二海堡プロジェクトチーム」を発足。関係者を交えて現地調査、意見交換会を実施した。

2018 年 7 月に第二海堡上陸ツーリズム推進協議会を発足し、第 1 回会議を開催した。国土交通省、海上保安庁、日本旅行業協会、全国旅行業協会、横須賀市、富津市等がメンバーとなって推進方法について協議した。

その後はトライアルツアーの実施に応募した旅行会社も参加しながら継続的に会議を開催し、プロジェクトを推進する母体となっている。

POINT 2 海事・軍事に詳しいガイド役の発掘と育成

トライアルツアーの実施に応募した５社の旅行会社の内の１社は、以前から横須賀に停泊している自社の船で、米海軍や海上自衛隊の戦艦を見る横須賀軍港めぐりや、かつて砲台が置かれた猿島をめぐる旅行商品を提供しており、周辺の海域に詳しく、また船や軍事の知識も豊富な人材がおり、この旅行会社が中心になってガイドを行うこととした。

第二海堡に上陸してからの約１時間のガイドだけではなく、片道 30 分の船上では、東京湾を行き交う大型船舶のガイドを行ない、参加者を楽しませている。

今後、本格実施に向けて、旅行会社が中心となり「案内人を公募し育成するプログラム」を実施することとしており、インバウンドへの対応も視野に入れて取り組んでいる。

POINT 3 旅行事業者の利用調整

平日は海上災害防止センターが海上災害の訓練を行っていることが多く、そのための船が停泊しているために桟橋が使用できず上陸ツアーが開催できない場合がある。

ツアー実施日は土日祝日が主となり、実施できる日が限られることから、調整会議により５つの旅行会社のツアー実施日を決めている。

次年度は第二海堡上陸ツーリズムの推進に関する連携協定者を募集することとしており、その事業者が中心となって、日程調整が行える仕組みとしていくことを検討している。

ガイドによる説明

基本情報

〔施設管理者〕
国土交通省 関東地方整備局・第三管区海上保安本部
〔実施主体〕
第二海堡上陸ツーリズム推進協議会
事務局：国土交通省 関東地方整備局港湾空港部 港湾計画課
〒231-8436 横浜市中区北仲通5-57 横浜第２合同庁舎
TEL：045-211-7416

5 実施にあたっての留意点

本書は、インフラツーリズム拡大のための勘所を示したが、実際の活用にあたっては各インフラの特性や地域特性に配慮し、以下の点に留意していくことが必要である。

（１）土木広報を基本に魅力的なインフラへ

インフラツーリズムの基本的な考え方は、「インフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すもの」である。
地域の歴史や地形とともにインフラの役割や意義を伝えることで、インフラへの理解が深まるうえ、地域の魅力も伝えることができる。説明のシナリオは、ダムマニアなどのインフラに興味を持つマニア向けと一般向けに分けて興味や理解度の違いにより説明や資料を用意することが望まれる。

例えば、普段見られない所を見せるにしても、詳しく知りたい人には構造が分かる場所を、一般の方々にはインフラの迫力が感じられる場所や全体が見られる視点場で案内するなど、見せ方を変えることでより満足度がより向上する。

なお、施設管理者職員以外が、見学会の説明等を実施する場合は、事前にインフラの役割や必要性を説明してもらえるよう説明用のシナリオを用意しておくことが望まれる。

（２）安全管理の確保

インフラは、観光施設としてつくられた施設ではないため、安全性の確保が重要である。そこで、見学にあたって階段などの昇降があることや危険性について事前に周知するなど参加条件を示しておく必要がある。

さらに、民間ツアーなどを受け入れる際には、保険に加入しているかなどを確認するなどの対応も必要である。

（３）地域連携の強化

インフラツーリズムの基本的な考え方の中で、“インフラツーリズムの拡大は、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与すること”を挙げている。

そこで、インフラに人を呼び込む工夫をしながら、インフラに来訪した方々を地域に誘うような周辺地域とあわせたパンフレットを作成したり、地域と連携したツアーやイベントを実施できるよう連携していく必要がある。

（４）ガイドの養成

インフラの説明は、土木技術者が説明すると専門用語を多用したり、自分が興味のある部分を深掘りして説明するなど一般の方々に説明内容が充分に伝わらない場合がある。

そのため、説明者となる方々に技術的な説明方法だけでなく、説明を聞く来訪者が耳を傾けるような話術の習得も必要である。そこで、今後は、インフラの魅力を高めると同時に、説明者の技量も高められるようにガイド養成が重要となってくる。

■勘所で取り上げた事例の問い合わせ先一覧

都道府県	インフラ名称	勘所事例	問い合わせ先	電　話
北海道	公共施設見学ツアー	P.24	北海道開発局	011-709-2311
青森県	津軽ダム	P.14，19，20	東北地方整備局　岩木川ダム統合管理事務所	0172-85-3035
宮城県	気仙沼港横断橋工事	P.24	東北地方整備局　仙台河川国道事務所	022-248-4131
	鳴子ダム	P.14	東北地方整備局　鳴子ダム管理所	0229-82-2341
福島県・新潟県	国道 289 号八十里越	P.11，25	北陸地方整備局　長岡国道事務所	0258-36-4551
栃木県	湯西川ダム	P.11，19，20，27	関東地方整備局　鬼怒川ダム統合管理事務所	028-661-1341
	川治ダム	P.13，15，18，19，21	関東地方整備局　鬼怒川ダム統合管理事務所	028-661-1341
	川俣ダム	P.11，21		
群馬県	ハッ場ダム	P.10，11，16	関東地方整備局　ハッ場ダム工事事務所	0279-82-2317
	矢木沢ダム	P.20，16	独立行政法人水資源機構　沼田総合管理所	0278-24-5711
	下久保ダム	P.26	独立行政法人水資源機構　下久保ダム管理所	0274-52-2746
埼玉県	首都圏外郭放水路	P.10,16,18,23,26,27	関東地方整備局　江戸川河川事務所	04-7125-7311
千葉県	東京外かく環状道路	P.14	東日本高速道路株式会社（NEXCO 東日本）	03-3506-0111
	第二海堡	P.21	関東地方整備局　港湾空港部港湾計画課	045-211-7416
神奈川県	宮ヶ瀬ダム	P.15，16	関東地方整備局　相模川水系広域ダム管理事務所	046-281-6911
富山県	立山カルデラ砂防博物館	P.21	富山県立山カルデラ砂防博物館	076-481-1160
長野県	小谷村砂防ダム群	P.12	小谷村観光連盟	0261-82-2233
	駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム	P.18	中部地方整備局　天竜川上流河川事務所	0265-81-6411
京都府	天ヶ瀬ダム	P.12，16，25	近畿地方整備局　淀川ダム統合管理事務所	072-856-3131
	三栖閘門	P.25	近畿地方整備局　淀川河川事務所	072-843-2861
兵庫県	明石海峡大橋	P.10，13，19，21，27	本州四国連絡高速道路株式会社	078-291-1033
島根県	尾原ダム	P.14，23	中国地方整備局　出雲河川事務所	0853-21-1850
広島県	防災体験施設	P.12	中国地方整備局　中国技術事務所	082-822-2340
	休山トンネル	P.43	中国地方整備局　広島国道事務所	082-281-4131
山口県・福岡県	関門橋	P.10	西日本高速道路株式会社（NEXCO 西日本）	06-6344-4000
高知県	横瀬川ダム	P.11，13，18	四国地方整備局　中筋川総合開発工事事務所	0880-66-0142
大分県	耶馬溪ダム	P.13	九州地方整備局　山国川河川事務所	0979-24-0571
沖縄県	漢那ダム	P.11，25	沖縄総合事務局　北部ダム統合管理事務所	0980-53-2442
	やんばる９ダム	P.26		

平成 31 年 2 月 26 日
第３回インフラツーリズム有識者懇談会資料

インフラツーリズム拡大の手引き －試行版－

編集　国土交通省　総合政策局
発刊日　２０１９年３月

問い合わせはこちらまで
国土交通省　総合政策局　公共事業企画調整課
〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3 (代表電話)03-5253-8111

インフラツーリズムポータルサイト
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/index.html

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure and Transport